

20th

Anniversary
Euglena Co., Ltd.

2025年12月期第2四半期決算説明

株式会社ユーグレナ
東証プライム市場（証券コード：2931）

2025.08.08

【免責事項】 本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

エグゼクティブサマリー

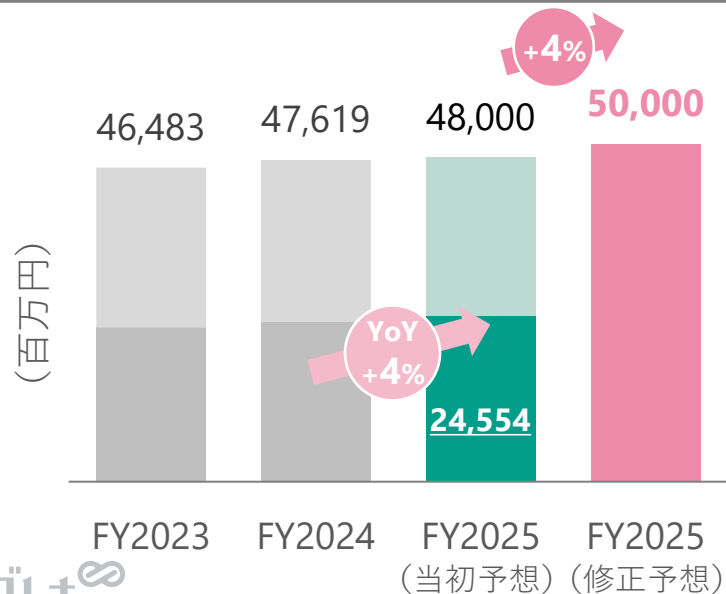
2025年度上期進捗

- 主要子会社の売上成長と収益構造改善効果が想定を上回り、**営業利益は前年同期比8倍増**
- バイオ燃料商業プラントの建設・運営を担うマレーシア合弁会社への**15%出資が完了**
- 微細藻類入り肥料・飼料ブランド（いきものたちにユーグレナ）の本格始動

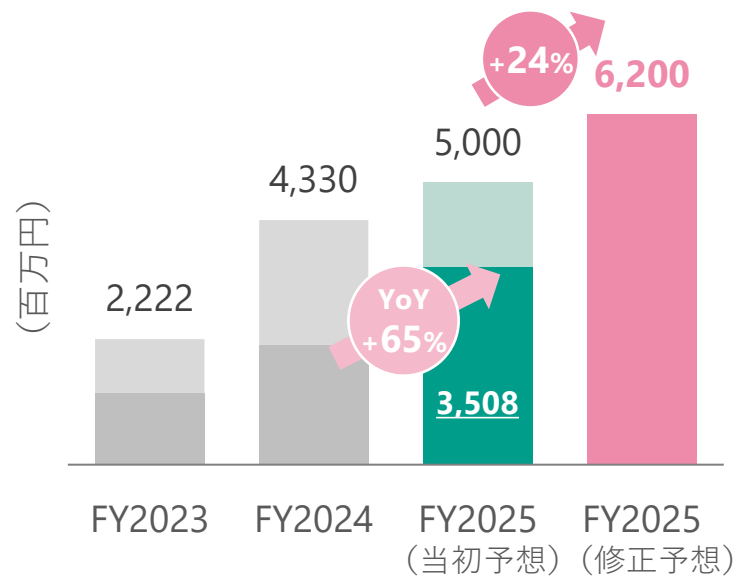
今後の展望

- 通期業績予想を**売上高500億円・調整後EBITDA62億円・営業利益24億円**へ上方修正
- 微細藻類軸での「探索」と既存事業の「深化」で、次の10年の成長を目指す
- ファインケミカルを追加した『新バイオマスの5F』を基本戦略とし、微細藻類の生産量拡大と市場創出を目指す

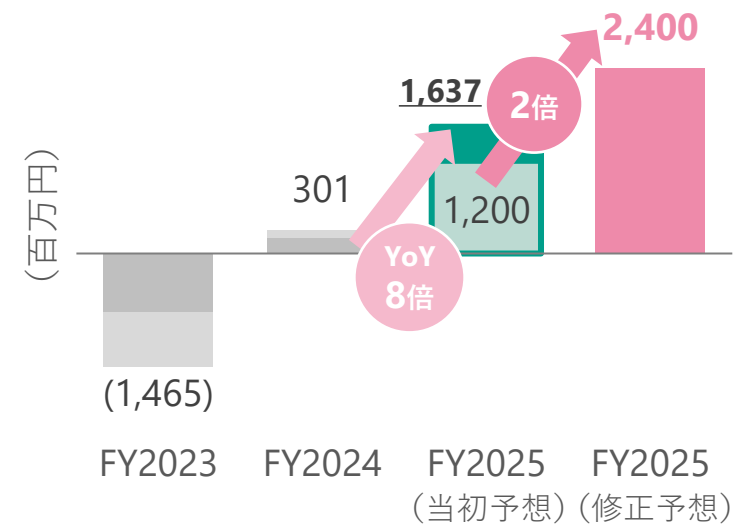
売上高



調整後EBITDA



営業利益

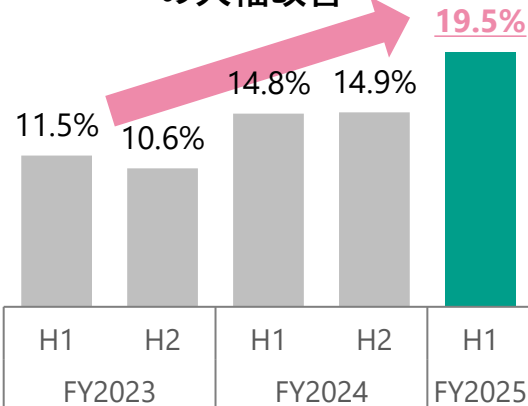


2025年度上期の進捗ハイライト

ヘルスケア

① 収益構造の筋肉質化

調整後EBITDAマージンの大幅改善



② 成長ブランドの育成

キューサイの
売上好調
コラリッチ拡大
が寄与



からだにユーグレナと
CONCの安定拡大



③ メーカー機能の強化

機能性素材の認知と
OEM先の拡大



サティス製薬の
売上好調



The Strategic FAB Company
SATICINE MEDICAL

素材開発

食品素材
「精製パラミロン」開発



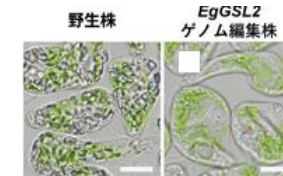
大規模培養

タンク培養による
スケールアップ実証推進



ゲノム編集

国産編集技術による
品種改良に成功



研究開発

バイオ燃料

① 原料調達/生産

バングラデシュ、
マレーシアで調査開始



② 製造

商業プラント
15%出資完了



③ 販売

サステオ51開発
と助成金の活用



第3の柱

ユーグレナ入り肥料・
飼料を開発・販売開始



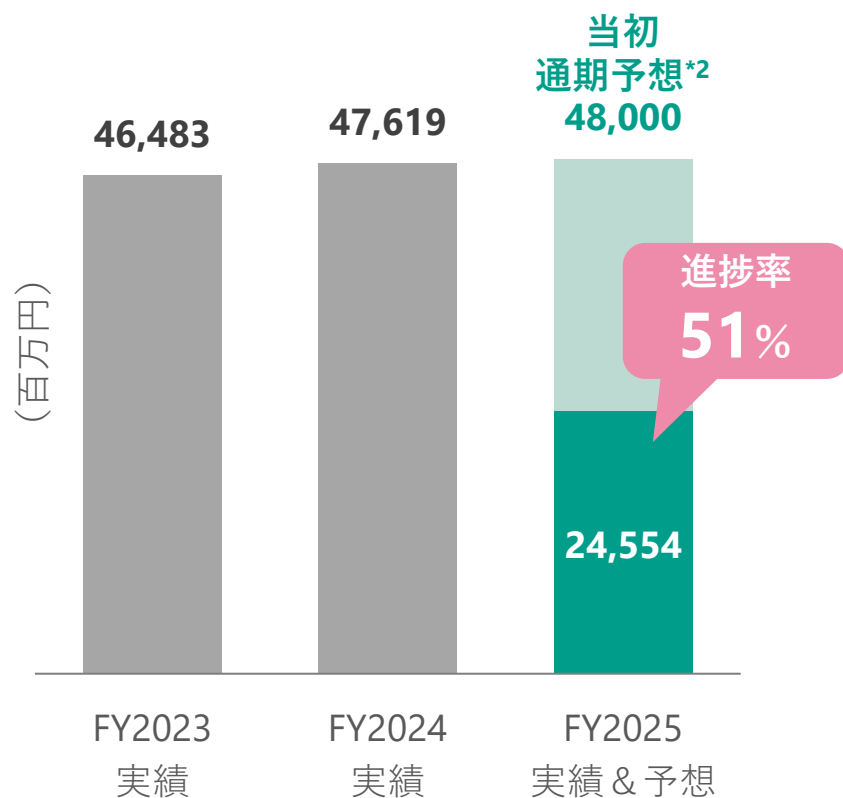
サステナブル・アグリテック

2025年度業績の進捗と予想

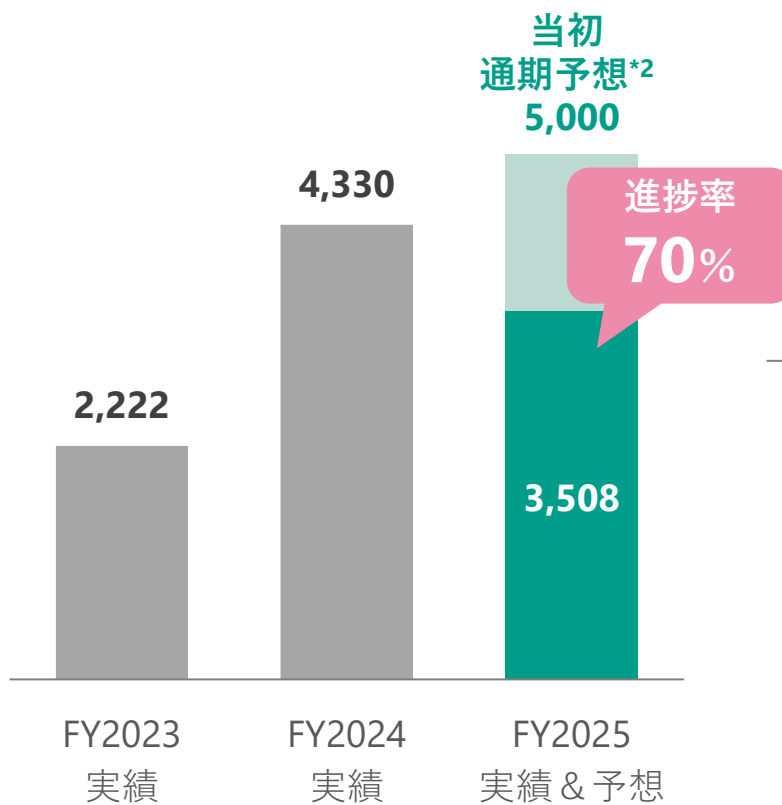
2025年度業績進捗

売上高はキューサイやサティス製薬が想定比を上回って推移
グループ横断での収益構造改善等も加わり、利益は計画を大幅に上回るペースで拡大

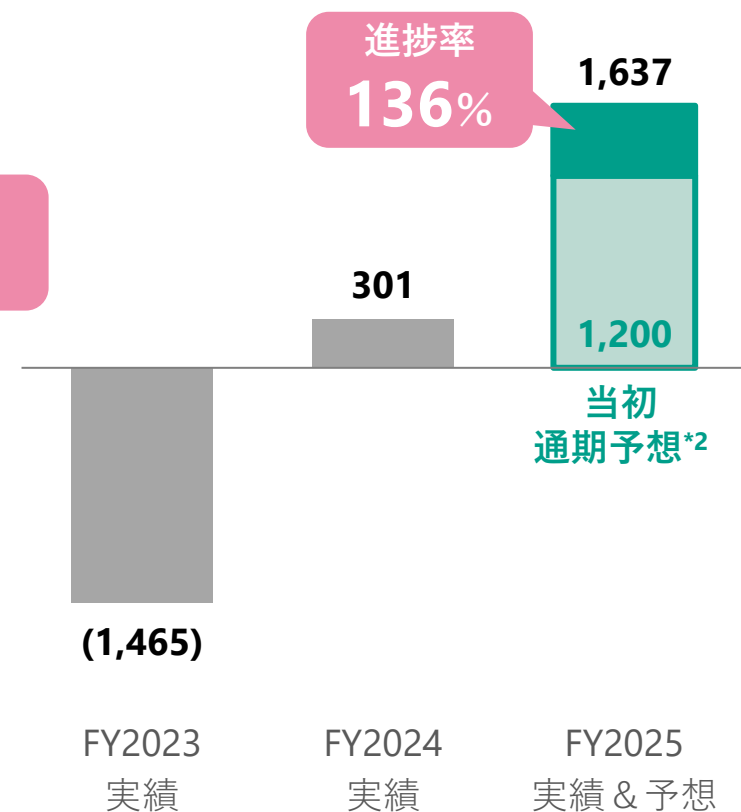
売上高



調整後EBITDA*1



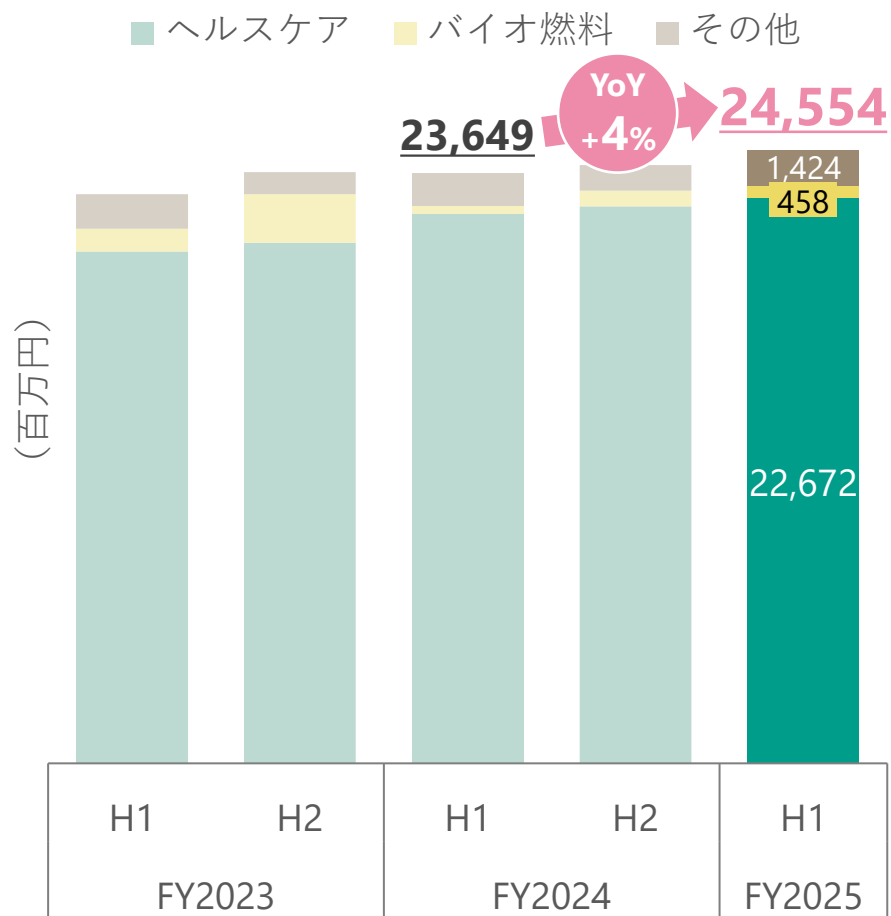
営業利益



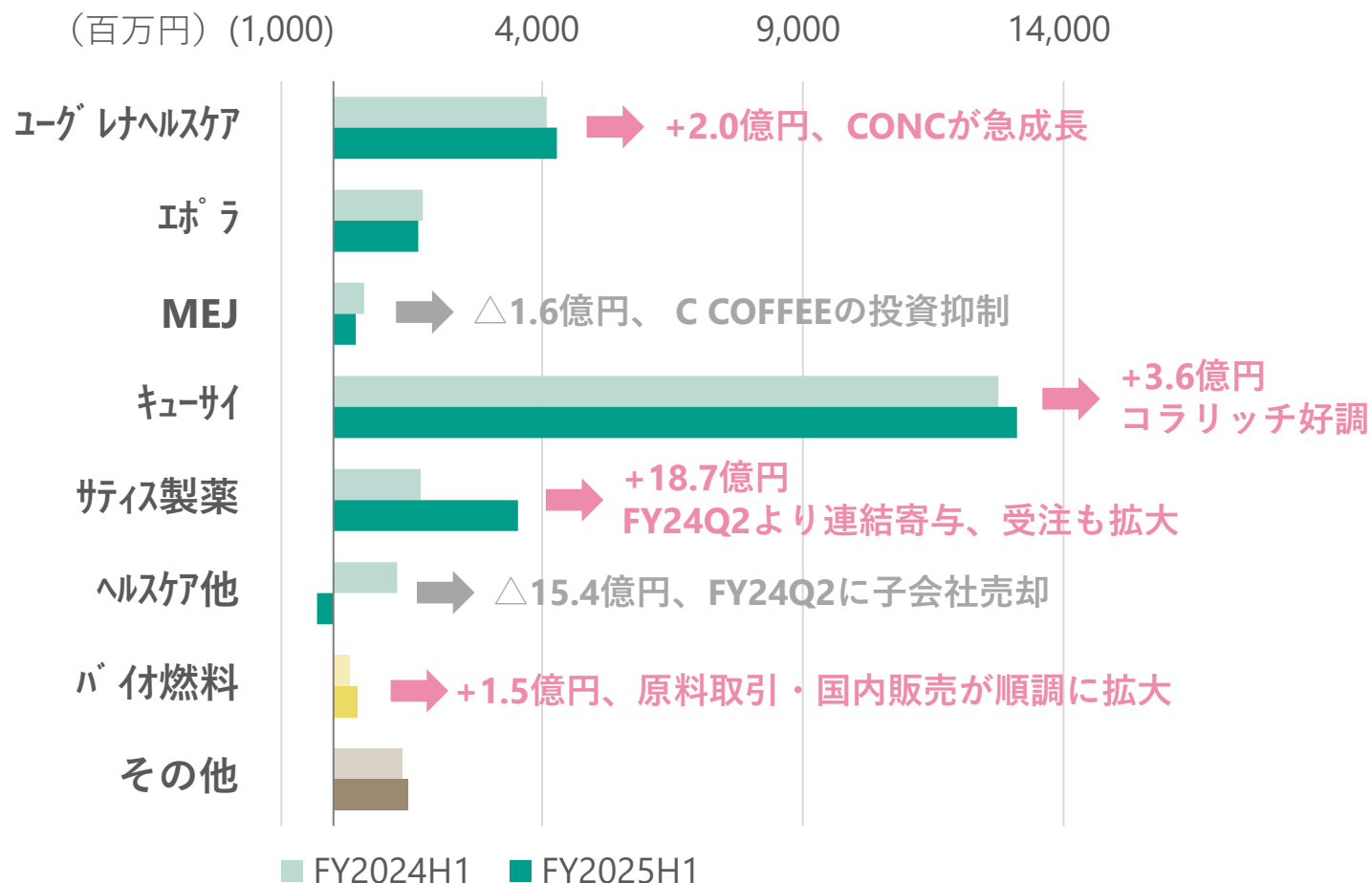
売上高

CONC・コラリッチの顧客数拡大及びサティス製薬の連結寄与等により、前年同期比で+4%成長

売上高推移



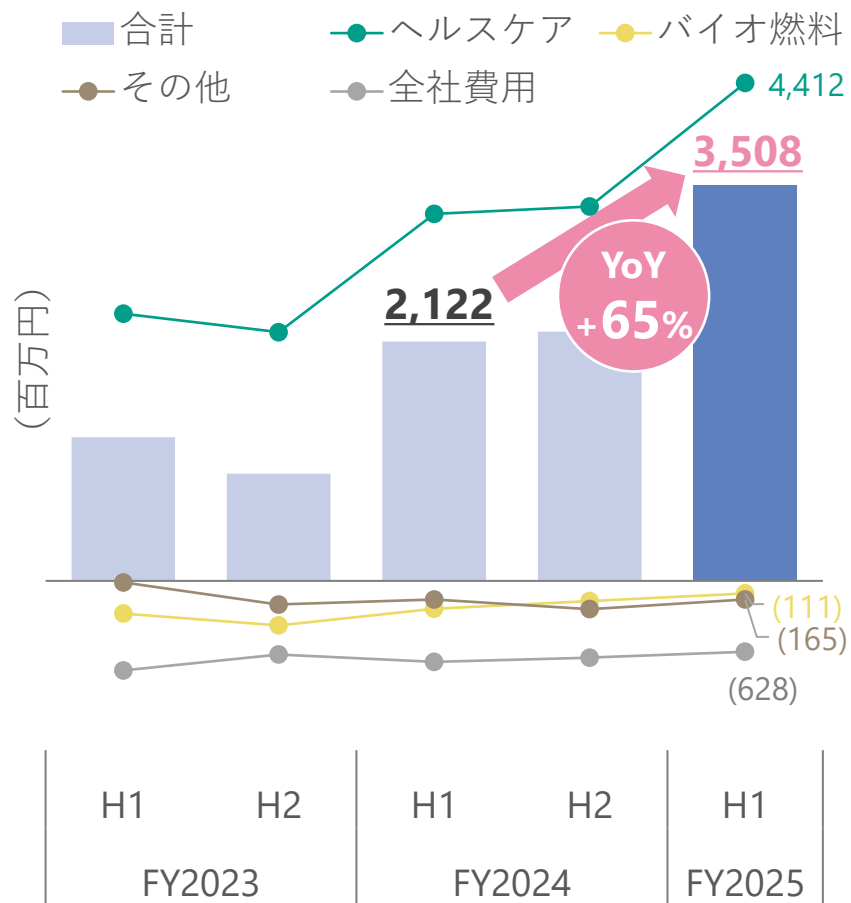
増減分析（事業別、前年同期比）



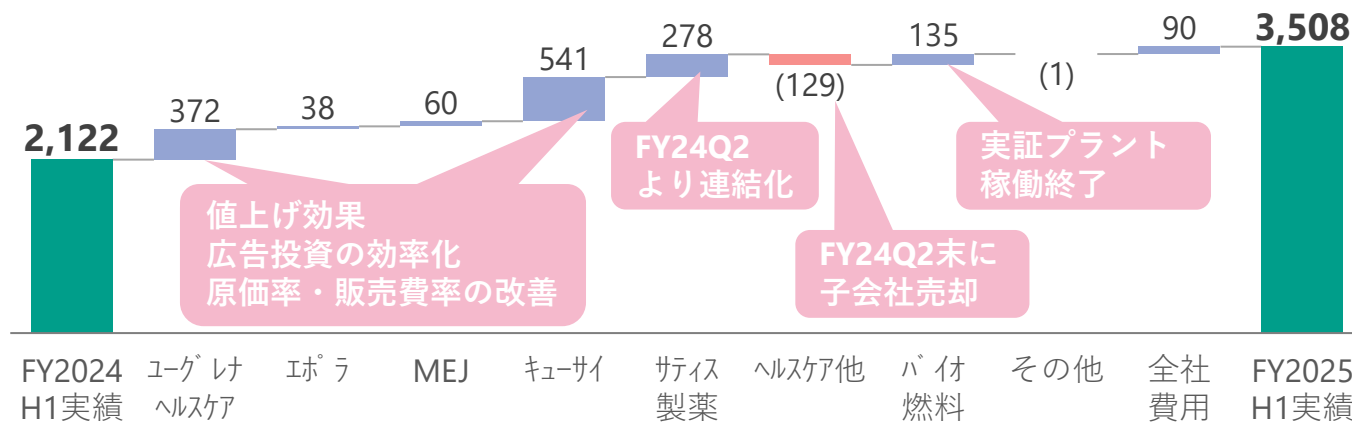
調整後EBITDA

ヘルスケアでの価格改定や各種コスト削減施策が奏功し、調整後EBITDAが+65%の大幅増

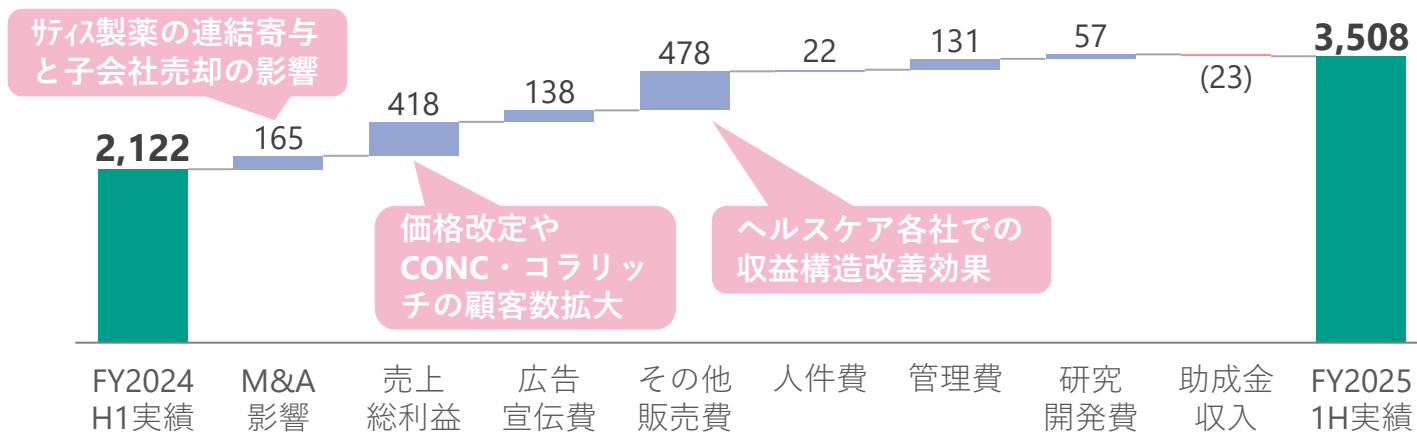
調整後EBITDA推移



増減分析（事業別、前年同期比）



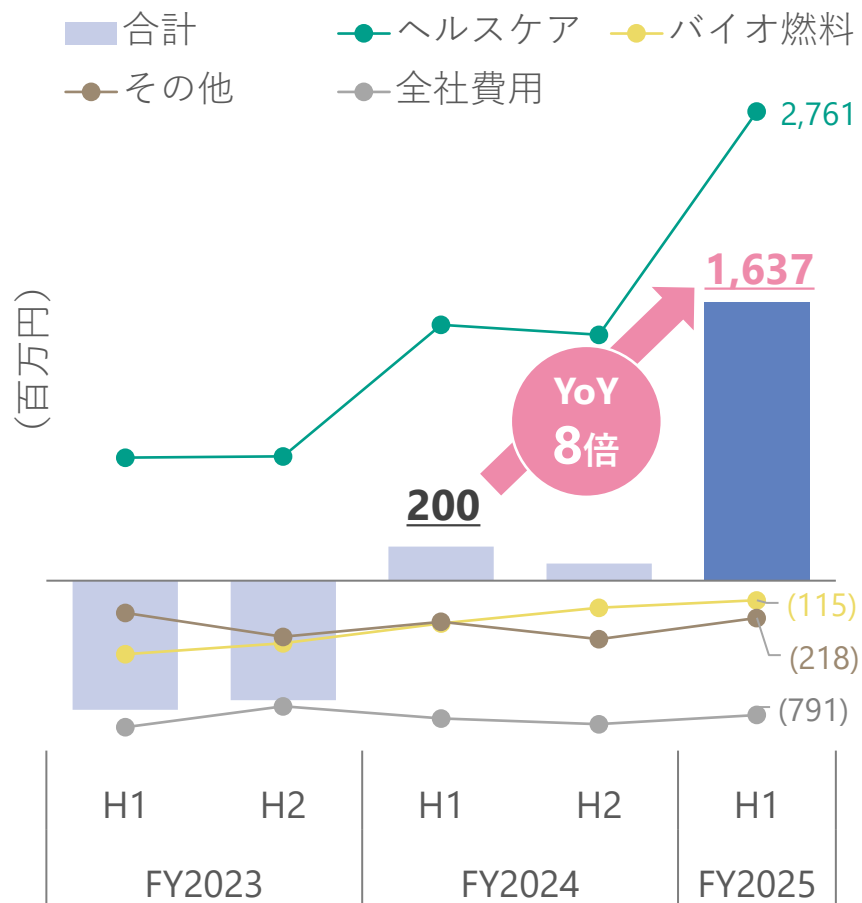
増減分析（科目別）



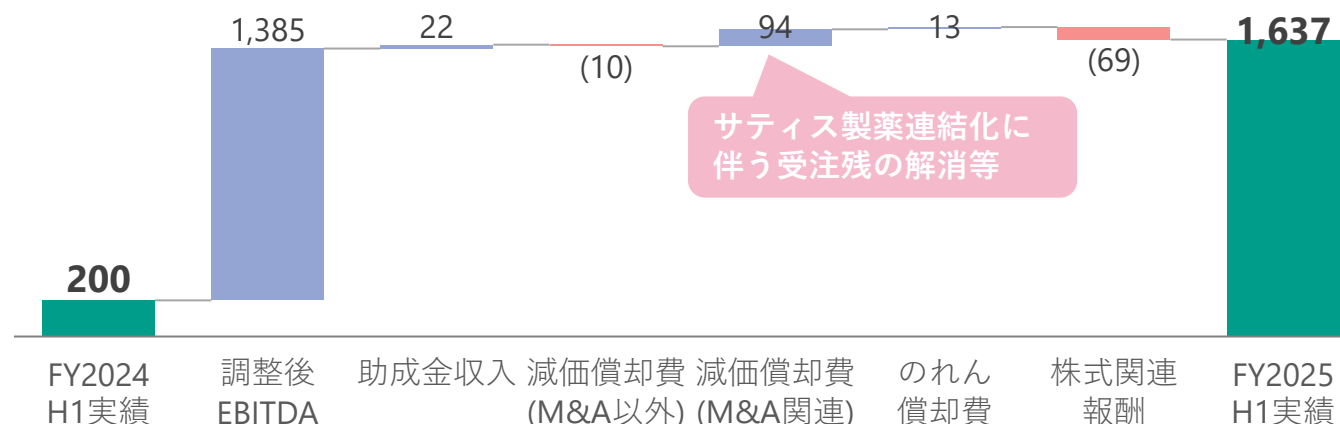
営業利益*1

調整後EBITDAの拡大で営業利益は8倍増、黒字体質が定着

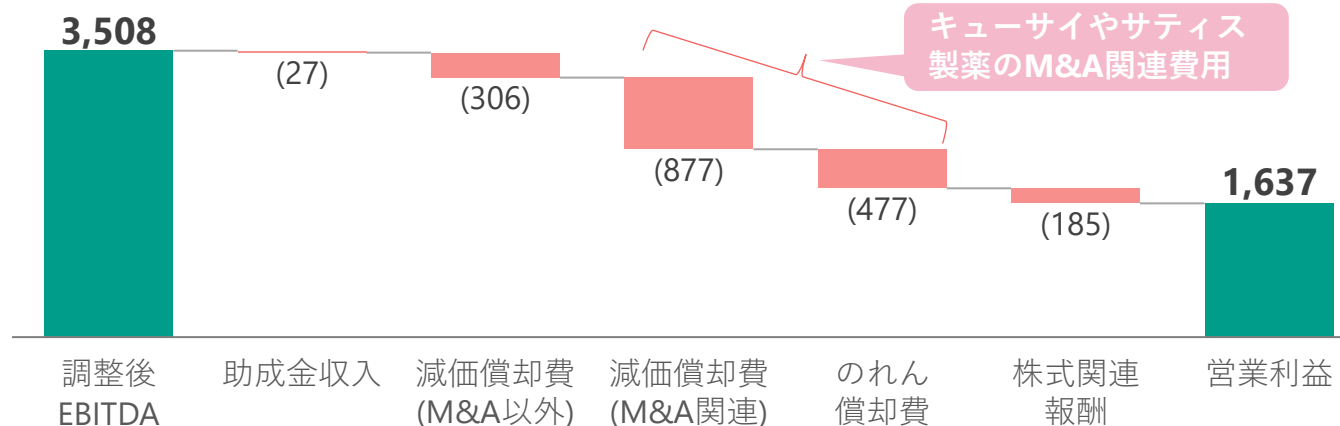
営業利益*1推移



増減分析（科目別、前年同期比）



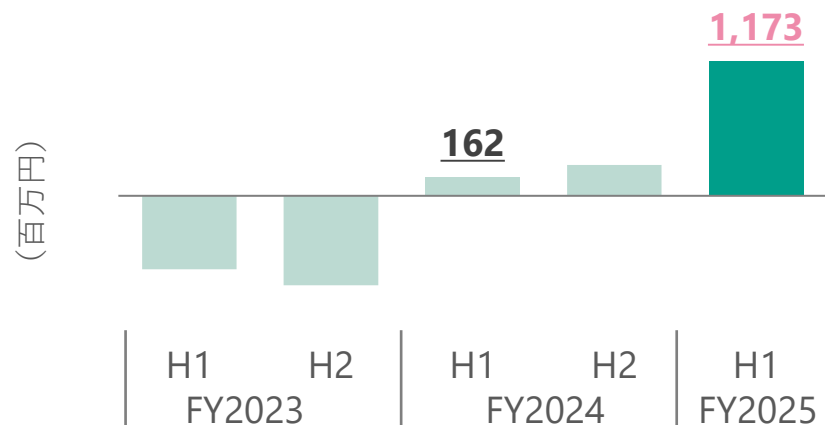
FY2025 H1 調整後EBITDA → 営業利益の内訳



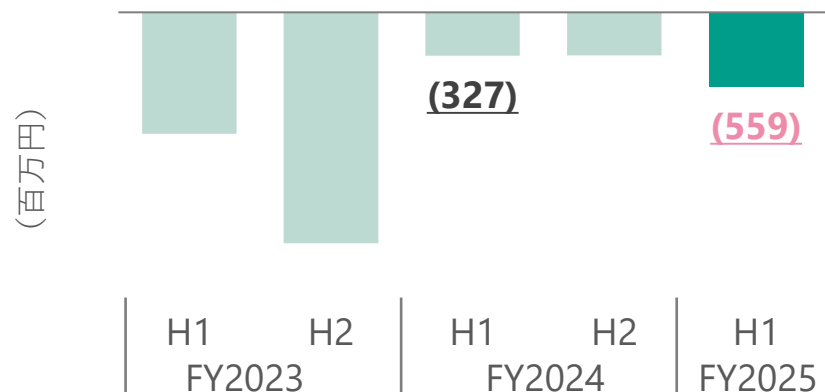
経常利益*1／当期純損失*1,2

特別損失やキューサイ関連の法人税等・非支配株主損益の影響で、最終損益は5.6億円の赤字

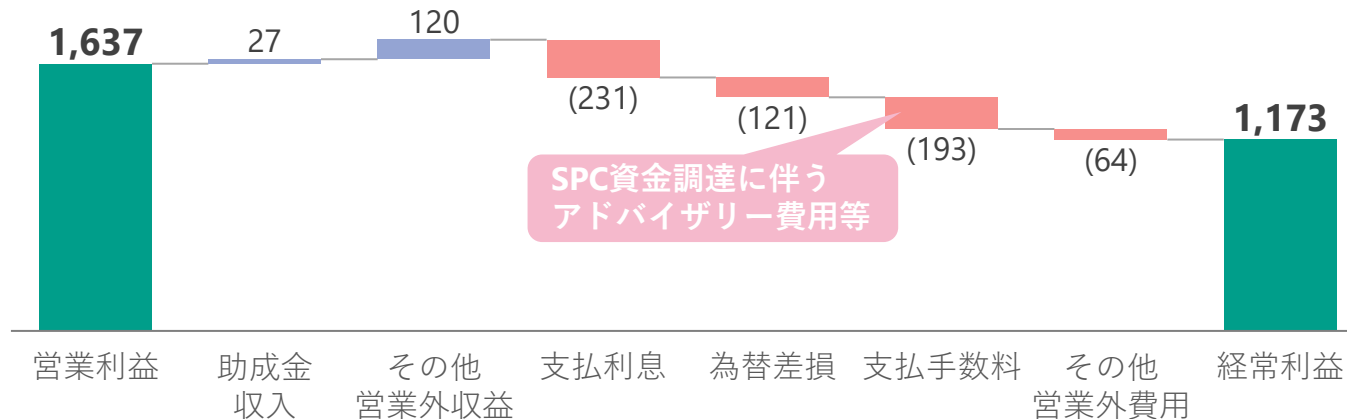
経常利益推移



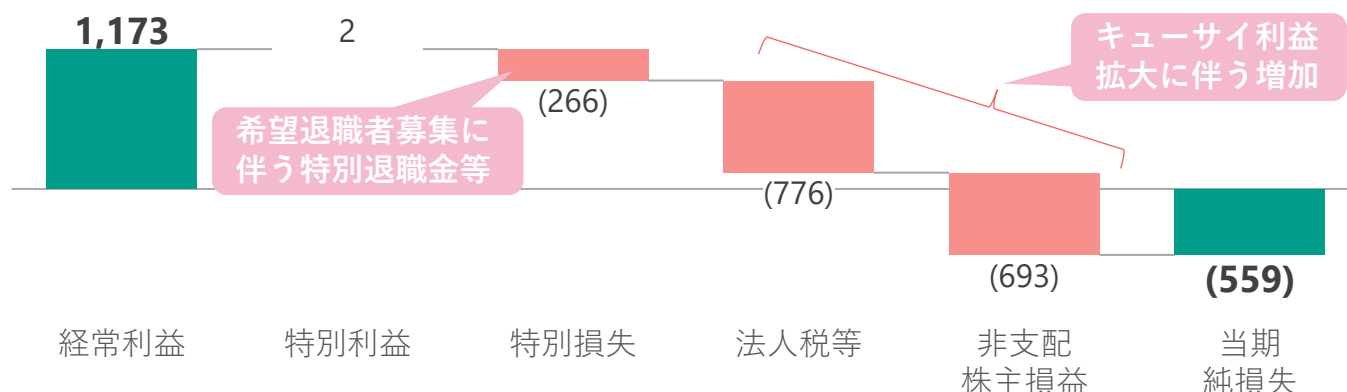
当期純損失推移



FY2025 H1 営業利益→経常利益の内訳



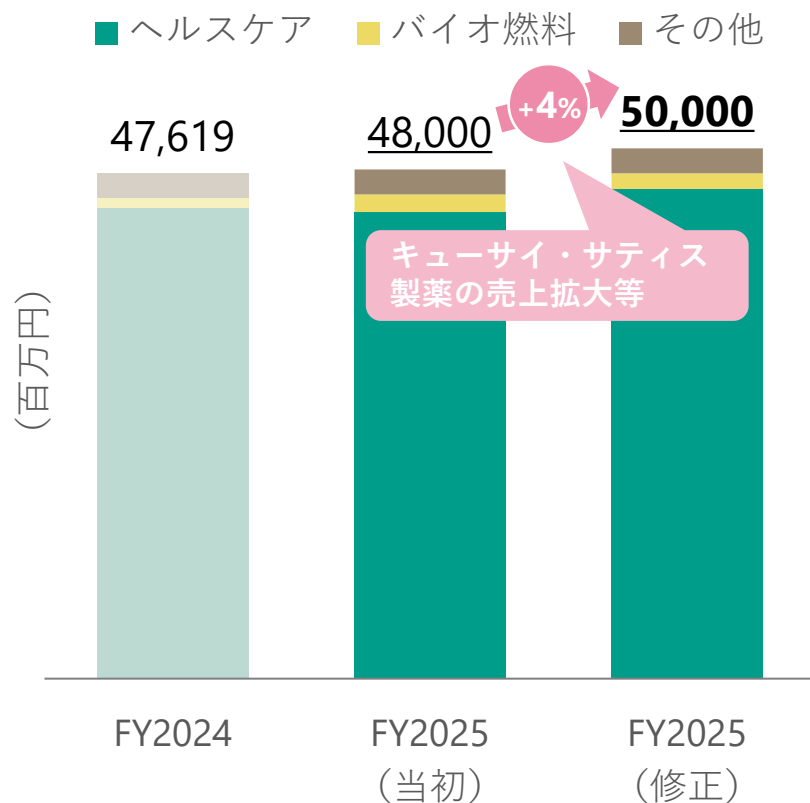
FY2025 H1 経常利益→当期純損失の内訳



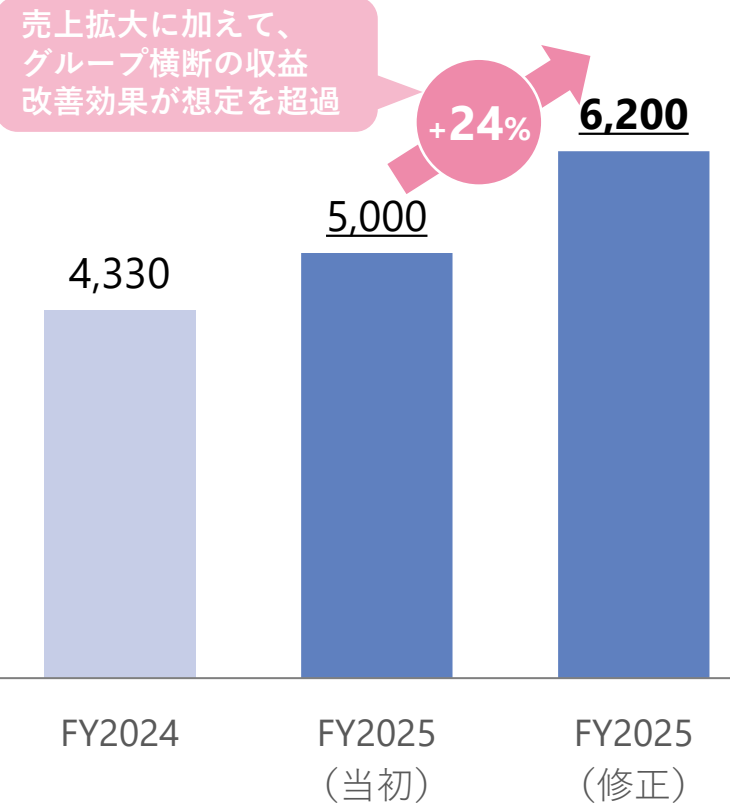
2025年度業績予想の上方修正

キューサイ・サティス製薬の売上拡大とグループ横断の収益改善効果が想定を上回ったことを踏まえ、通期業績予想を上方修正*1。営業利益予想は当初比2倍へ

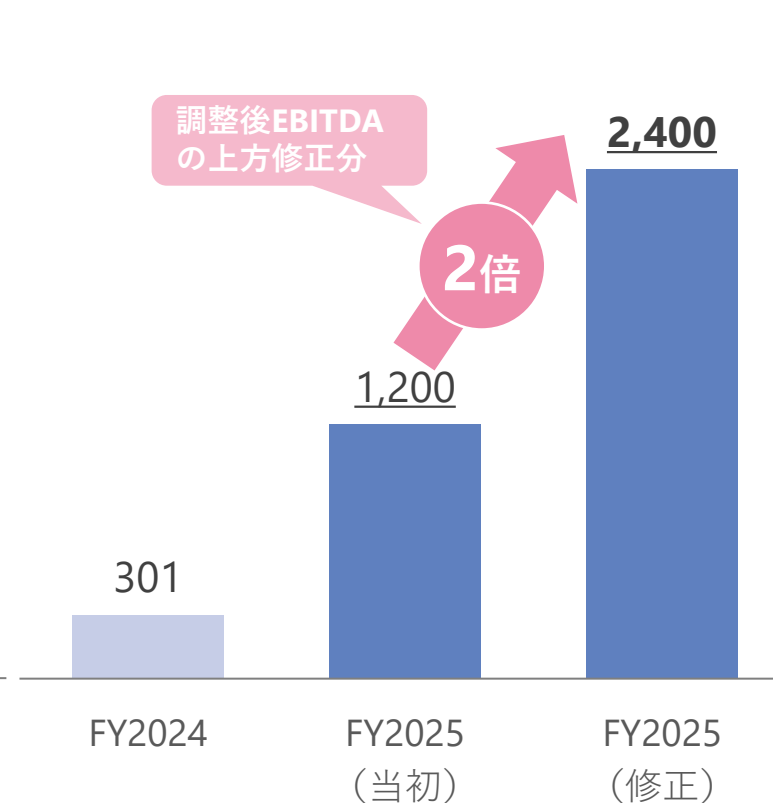
売上高



調整後EBITDA



営業利益



中期経営方針の進捗と今後の展望

中期経営方針の進捗

「黒字体質への転換」は前期に達成、今期のテーマは黒字定着と売上成長
「原点回帰」と「バイオマスの5F&両利きの経営」に基づき、新たな成長戦略を構築



フィロソフィー（経営哲学）

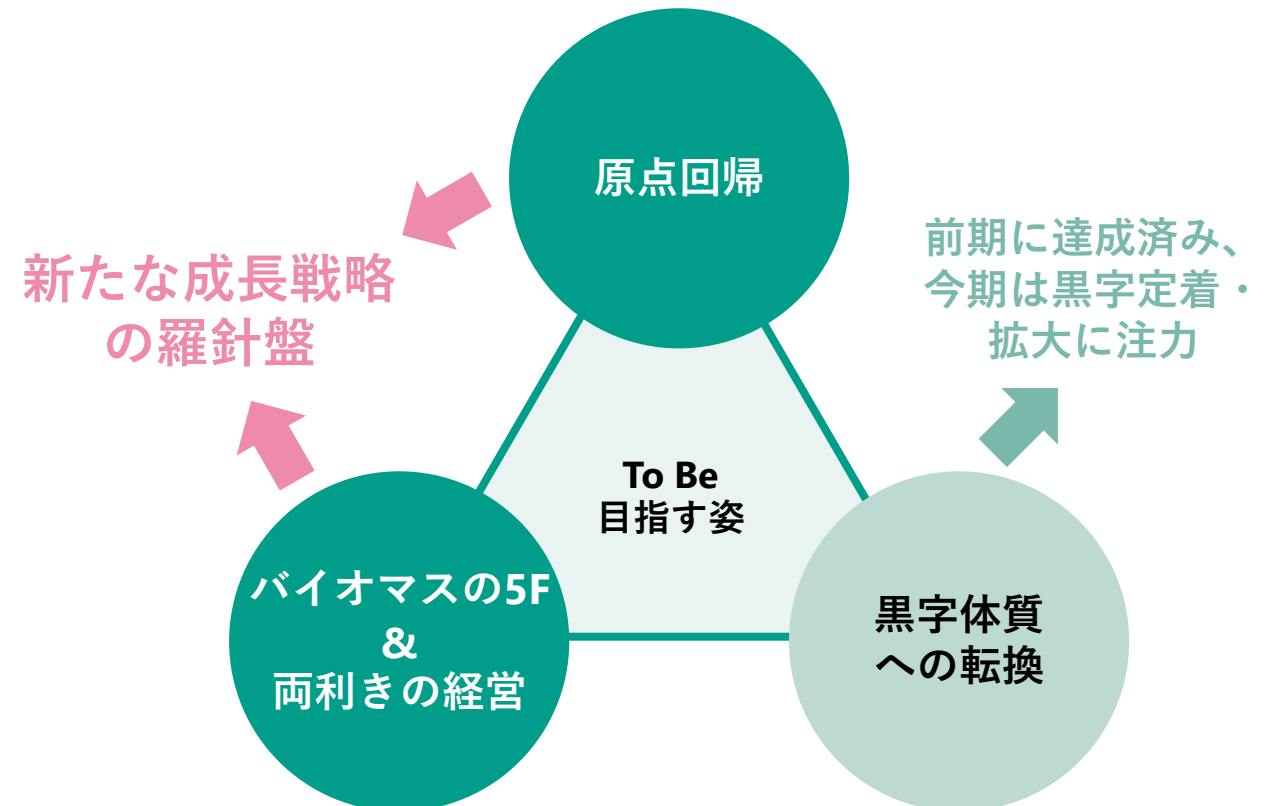
Sustainability First

サステナビリティ・ファースト

パーパス（存在意義）

人と地球を健康にする

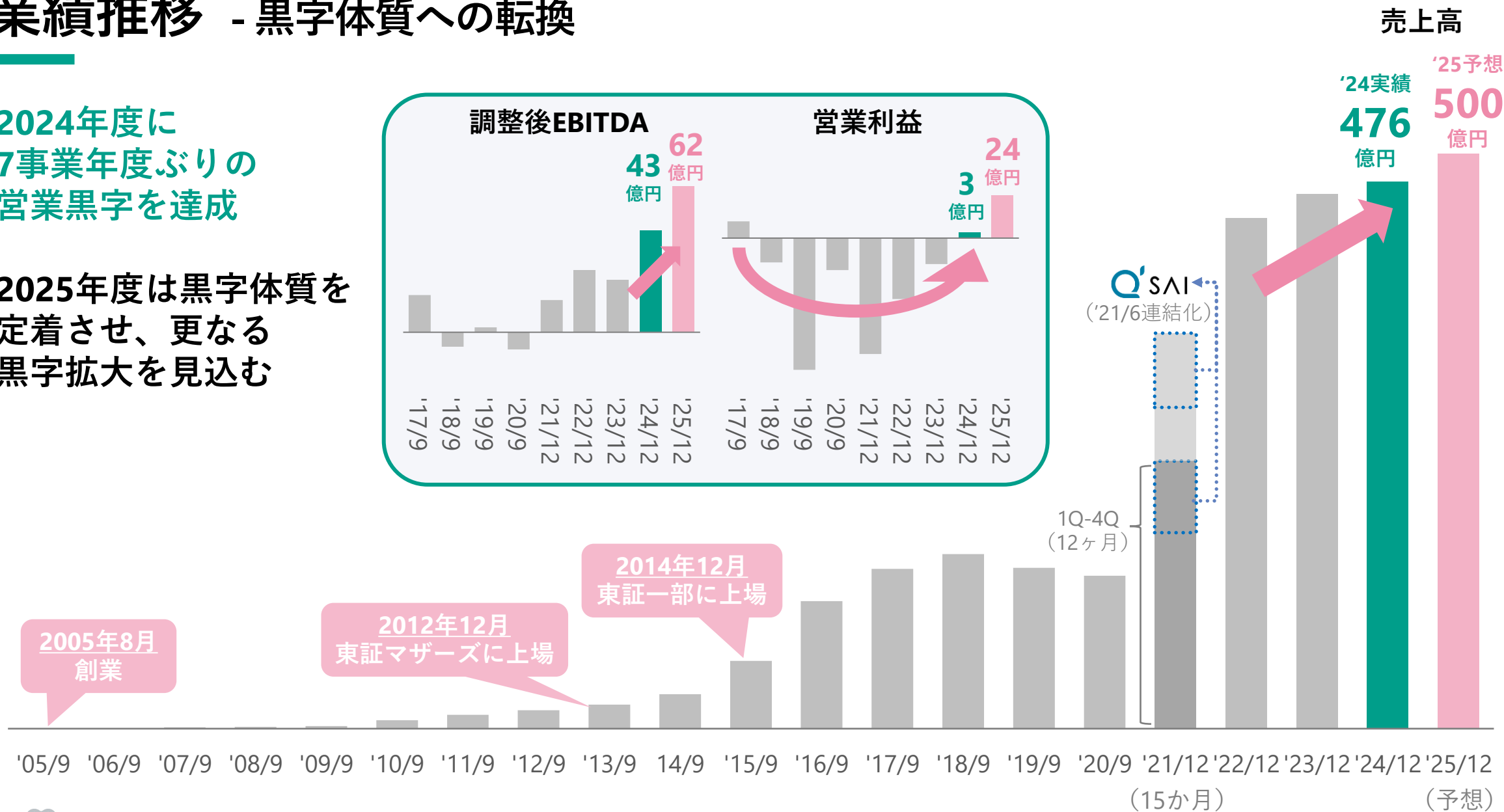
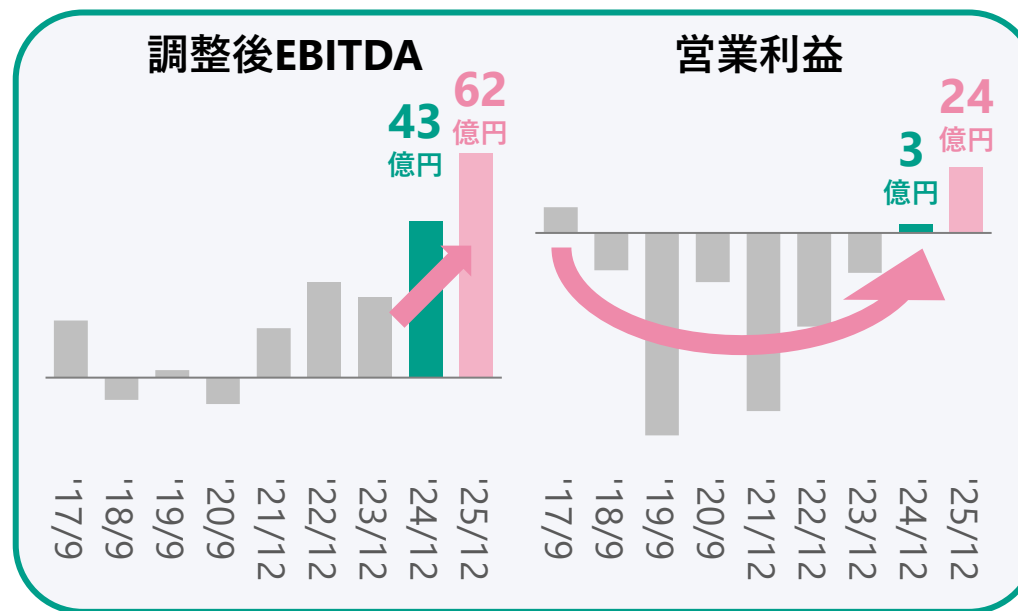
中期経営方針



業績推移 - 黒字体質への転換

2024年度に
7事業年度ぶりの
営業黒字を達成

2025年度は黒字体質を
定着させ、更なる
黒字拡大を見込む



変遷 - ヘルスケア事業

藻類中心の展開から、M&Aによる非連続成長とポートフォリオ拡充にシフト

自社藻類食品・化粧品は引き続き主力事業、OEM/素材/海外に更なる開拓の余地あり

2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030



変遷 - バイオ燃料事業

商業プラントへの15%出資が確定、パイオニアとして製品製造に目途

原料調達・販売網拡大に取り組みつつ、原点である藻油供給実現に向けた研究開発を継続

2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030



変遷 - サステナブル・アグリテック事業

研究成果を活かして、機能性領域を中心に藻類肥料・飼料の本格展開を開始

製造・販売能力はM&Aやパートナーシップにより拡充、将来の藻類肥料・飼料販売の拡大につなげる

2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030



事業ポートフォリオの変化 - 過去10年と次の10年

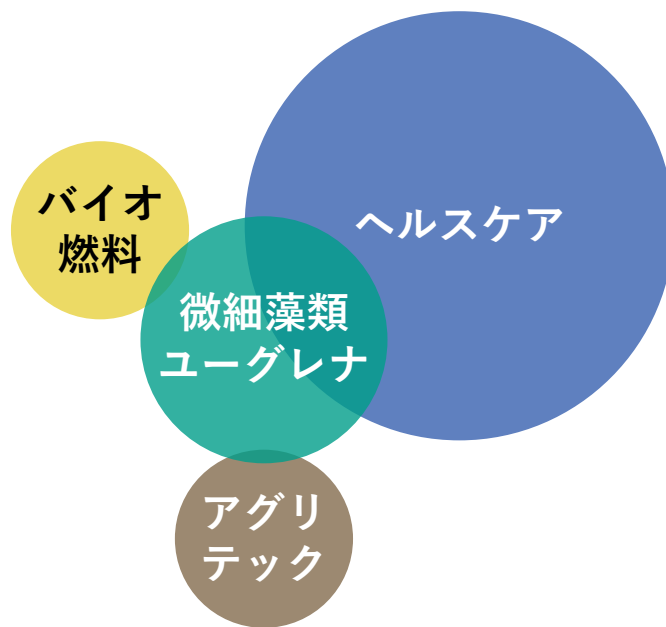
微細藻類を軸にヘルスケア・バイオ燃料・アグリテックとの重なりを強化

微細藻類軸での「探索」と既存事業の「深化」による「両利きの経営」で、次の10年の成長を目指す

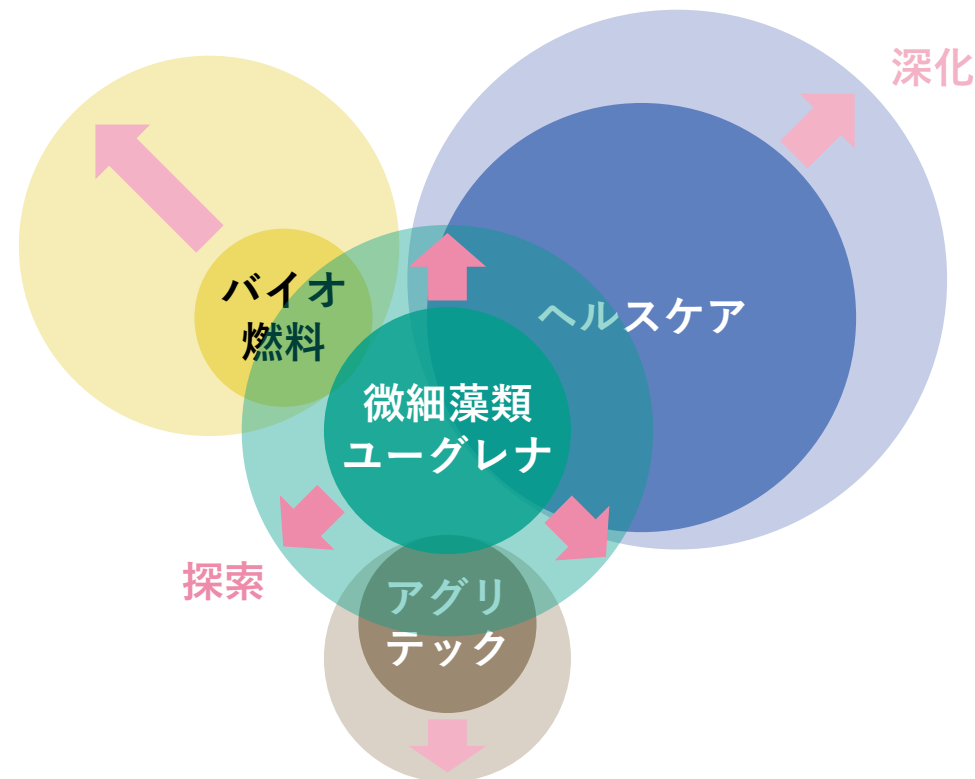
2015年



2025年



2035年



微細藻類軸の「探索」 - 新バイオマスの5F

ファインケミカル（高機能原料）を加えた当社独自の『新バイオマスの5F』を基本戦略とし、抽出成分や加工製品の販売を通じて、微細藻類の生産量拡大を目指す

新バイオマスの5F



ファインケミカル（高機能原料）とは？

ユーグレナなどの微細藻類から**高機能・高純度な成分**を抽出し、
食品・化粧品など**多様な用途の原料**として利用

ユーグレナ
から抽出・加工

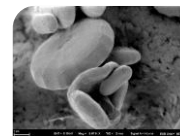


ミドリ麹
エキス



ユーグレナ
発酵オイル

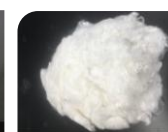
パラミロン*1の抽出・加工



バイオ
プラスチック



パラミロン
フィルム



パラミロン
レーヨン

ワックスエステル*2
の抽出・加工



化粧品原料



潤滑油

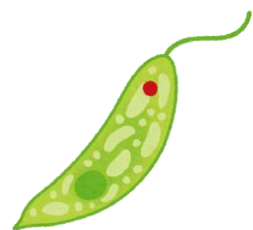
*1: β -1,3-グルカンと呼ばれる食物繊維の一種で、ユーグレナが生成する希少成分 *2: ユーグレナが体内に生成する脂質成分

微細藻類軸の「探索」 - ユーグレナの多段活用の可能性

微細藻類ユーグレナの全成分を多段階に活用し、藻体価値を最大化
サステナブルかつ高収益なビジネスモデルの確立を目指す

抽出・精製フロー

利用用途



微細藻類
ユーグレナ

抽出

ファインケミカル領域



ワックスエステル



精製パラミロン

残渣



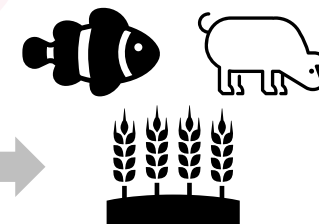
脱脂藻体*1



化粧品原料



機能性食品



飼料・肥料



バイオ燃料用藻油

微細藻類軸の「探索」 - 生産量の拡大

2030年まではファインケミカルや機能性肥料・飼料
を切り口に技術開発と生産量拡大を推進

2030年代にバイオ燃料用藻油と
脱脂藻体活用による代替肥料・飼料の
本格展開開始を目指す

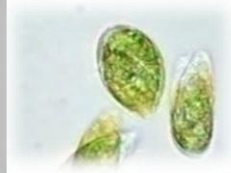
生産量拡大に伴い
生産コストも低減



微細藻類由来
バイオ燃料



代替肥料・飼料



微細藻類
生産量

機能性肥料・飼料
ファインケミカル（化粧品・高機能原料）

食品

2025年

2030年～

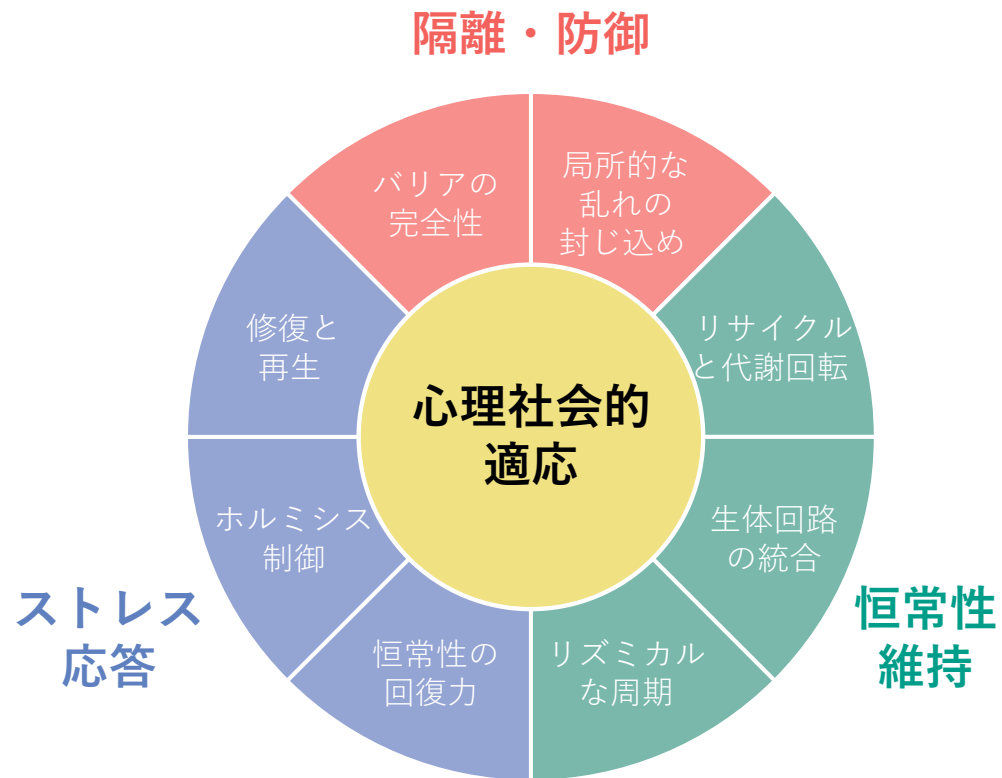
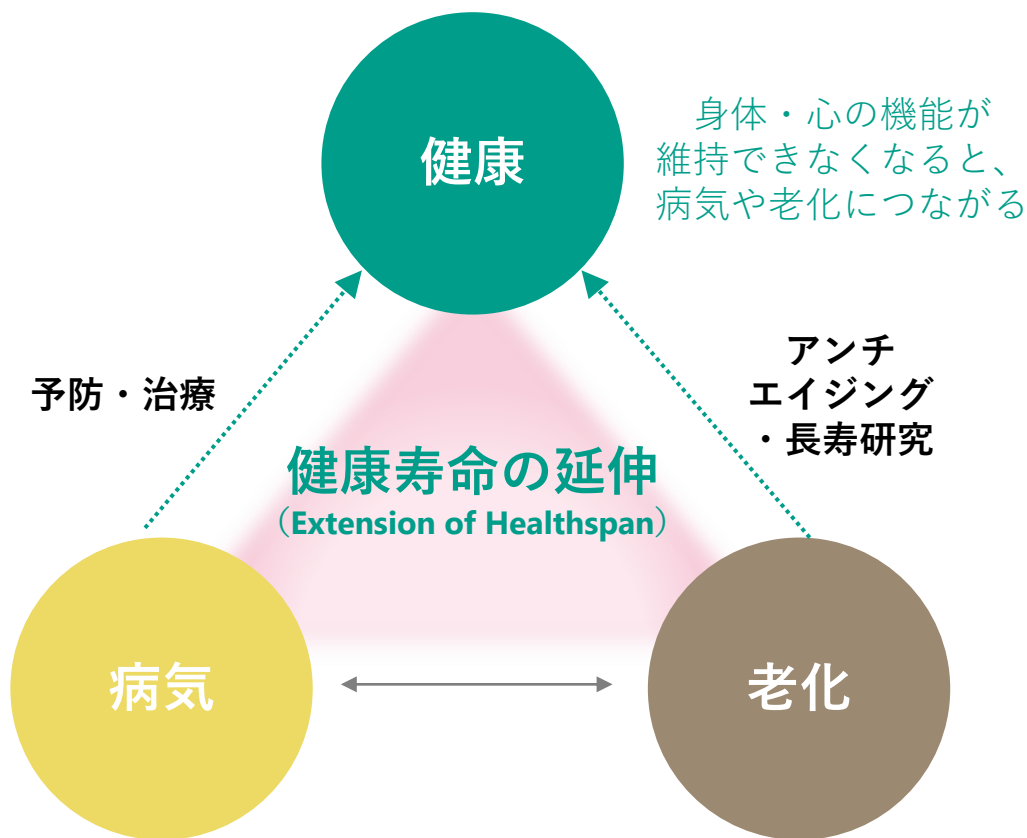
原点回帰 - 研究開発

人を健康にする - 「健康寿命延伸」に向けて

健康を「病なき状態」ではなく、身体・心の機能が維持され柔軟に対応できる状態と捉え、その基盤を科学的に体系化した概念が健康ホールマークス（Hallmarks of Health）

「人が健康である」とは？

健康維持のための主要な特徴 (Hallmarks of Health)



人を健康にする - 【参考】健康維持のための主要な特徴

健康ホールマークス（Hallmarks of Health）は4つのカテゴリーと9つの主要な健康要素から成り、維持されることで健康寿命延伸に、破綻すると病気や老化につながることを示唆

隔離・防御

バリアの完全性	● 上皮バリア ● 粘膜バリア ● 物理的バリア ● 免疫バリア・粘膜免疫等
局所的な乱れの封じ込め	● 炎症応答の限定 ● 感染の局所封じ込め ● 損傷信号の局所化

ストレス応答

恒常性の回復力	● ストレス耐性 ● 生理的基準値維持 ● 適応応答
ホルミシスの調節	● 軽度ストレス対応 ● 運動ホルミシス ● 食事制限ホルミシス
修復と再生	● 創傷治癒 ● 幹/前駆細胞活性化 ● 組織再生

適度なストレスや刺激が、生体にとって逆に有益な適応反応や強化をもたらす生物学的現象又は調節作用

恒常性維持

リサイクルと代謝回転	● オートファジー ● タンパク質恒常性 ● ミトコンドリア/リソソーム分解
生体回路の統合	● 神経回路 ● 免疫回路 ● 内分泌回路 ● 腸脳軸
リズムカルな周期	● 概日リズム ● 超日/亜日周期 ● ホルモン周期

心理社会的適応

心理社会的適応	● ストレス対処 ● 社会的サポート ● メンタルヘルス適応
---------	--

人を健康にする - 「健康寿命延伸」 素材としてのユーグレナのポテンシャル

これまでに報告されているユーグレナの機能性に関する内外の研究成果の多くが、9つの健康の要素を網羅的にカバーしており、「健康寿命延伸」に寄与する素材としてのポテンシャルを示唆

59種類の
栄養素



細胞壁が無い
(消化しやすい)

隔離・防御

- | | |
|-------------|--|
| バリアの完全性 | <ul style="list-style-type: none">腸内細菌の調整を介した腸粘膜のバリア強化肌免疫細胞活性化、保湿を介した皮膚のバリア機能強化アトピー性皮膚炎症状の軽減 |
| 局所的な乱れの封じ込め | <ul style="list-style-type: none">免疫細胞の調整を介した感冒症状の発生および重症化の抑制宿主細胞の防御機構の活性化やサイトカインの産生調整を介したインフルエンザのウイルス増殖抑制・症状緩和炎症性サイトカインの減少を介した胃粘膜炎症や腸炎症の抑制スギ花粉症症状の緩和関節リウマチ症状の緩和 |

恒常性維持

- | | |
|------------|---|
| リサイクルと代謝回転 | <ul style="list-style-type: none">皮膚細胞の増殖・ターンオーバー促進便通改善脂質、糖質代謝改善プリン体吸収抑制・血中尿酸値低減 |
| 生体回路の統合 | <ul style="list-style-type: none">認知機能における認知機能速度や運動速度の向上、記憶維持腸内細菌叢のバランス調整免疫・神経・腸管でのCaシグナル陽性脳由来神経栄養因子 (BDNF)の上昇 |
| リズムカルな周期 | <ul style="list-style-type: none">睡眠の質の向上体内時計の調整 |

ストレス応答

- | | |
|----------|---|
| 恒常性の回復力 | <ul style="list-style-type: none">疲労感の軽減血糖値上昇の抑制高強度運動時のアドレナリン分泌の抑制自律神経バランス (LF/HF値) の調整 |
| ホルミシスの調節 | <ul style="list-style-type: none">Dectin-1からの刺激を介した免疫バランス調整 |
| 修復と再生 | <ul style="list-style-type: none">パラミロンフィラムの創傷治癒効果筋肉量の維持・運動機能低下の抑制慢性腎障害モデルでの腎繊維化抑制NASHモデルでの肝臓の線維化の抑制 |

心理社会的適応

- | | |
|---------|---|
| 心理社会的適応 | <ul style="list-style-type: none">心の健康スコアの改善作業ストレス時のイライラ感や緊張感の抑制コルチゾール分泌抑制等化粧品素材としての活用 |
|---------|---|

※一部の作用は複数のホールマークに関連する可能性があります、本整理では便宜的に最も代表的な関連ホールマークのもとに記載しています。

地球を健康にする - バイオ燃料原料としてのユーグレナのポテンシャル

サステナブルな原料ソースとして、藻油は様々な優位性を有する

バイオ燃料原料としての利用可能性は実証済みで、残る課題はボリュームとコスト

① 複数の培養方法にチャレンジ可能

- 独立栄養培養
- 従属栄養培養

② 細胞壁が無く、油脂抽出が容易

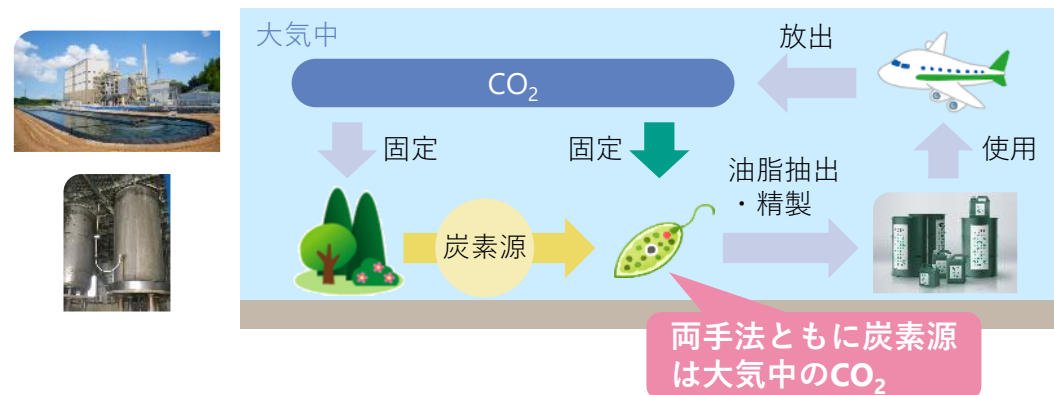
- 他の藻類と比べて低コスト・低エネルギーで油脂抽出が可能

③ SAF製造に適したワックスエステル^{*1}を生成

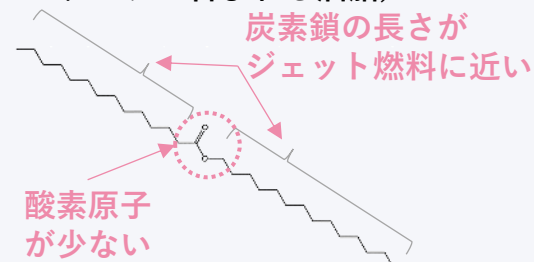
- 低エネルギー・低水素使用量でSAF製造が可能

④ 脱脂藻体の多様な用途

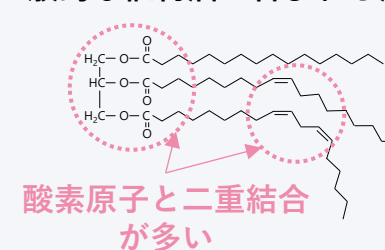
- 脱脂藻体を飼料・肥料販売することで、製造コストの低減が可能



ワックスエステル^{*1}
(ユーグレナに含まれる油脂)



トリグリセリドの例^{*2}
(一般的な植物油に含まれる油脂)



当社の技術力 - ファインケミカル素材としてのパラミロンの規格化

パラミロン原料を規格化し、パラミロン高配合の新商品（食品）を新発売

食品用

原料規格化

- 食品素材として国産最高濃度の「**精製パラミロン**」を開発、食品用途の活用・大量生産に向けて原料規格化



精製パラミロン

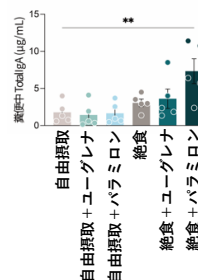
商品化

- 希少成分パラミロンを高配合した「**パラミロン1000**」を新発売



R&D

- 絶食時のパラミロン摂取により短期間で腸内環境と免疫機能に関する効果が期待できる可能性を確認

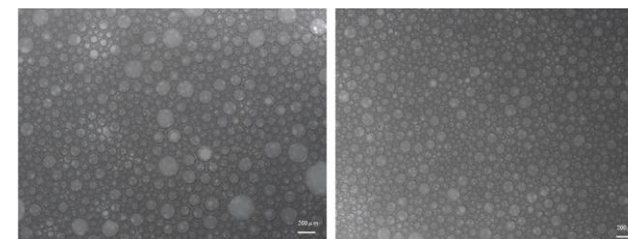


化粧品用

- 医薬部外品・化粧品原料「**パラミロン原末（ユーグレナ多糖体）**」を開発、規格化。医薬部外品にも配合可能な原料



パラミロン原末

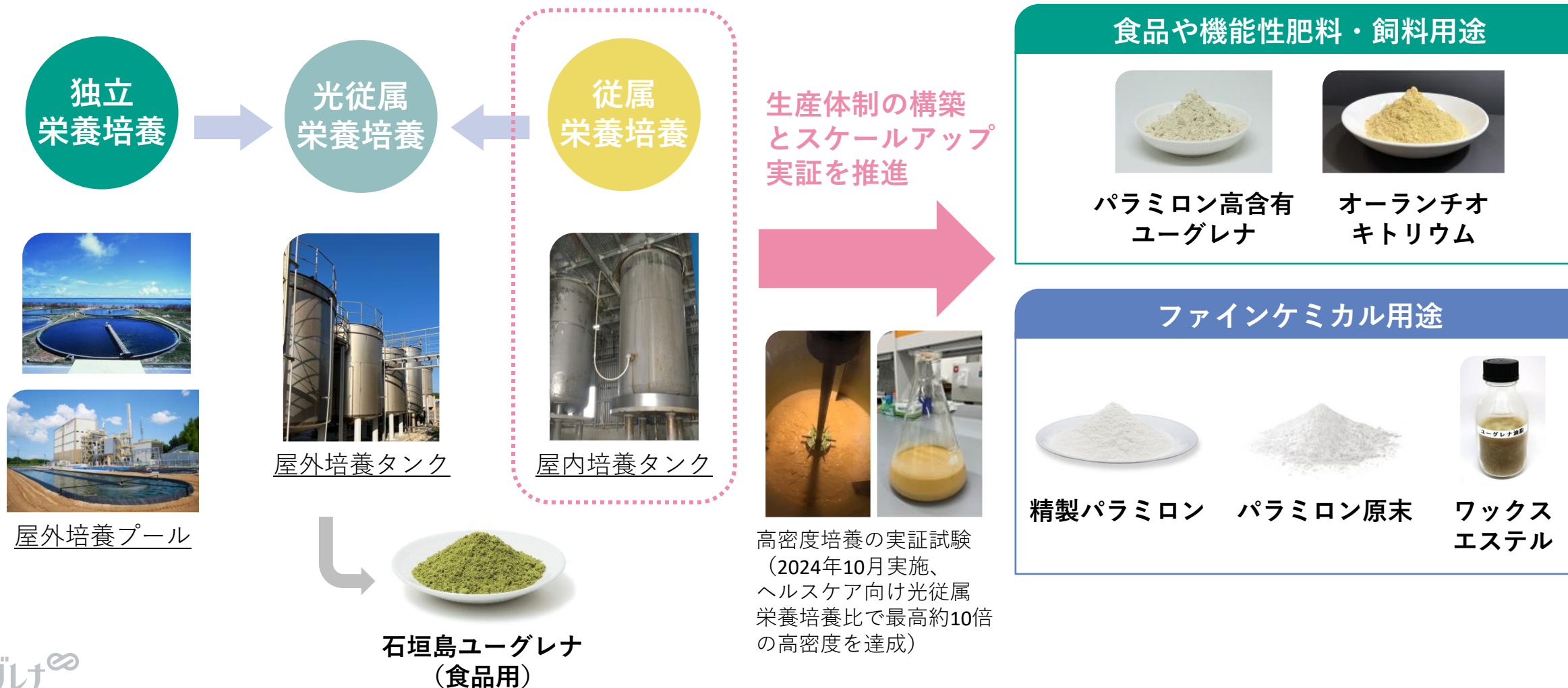


泡立ち後の洗顔料の泡の顕微鏡写真

➡ 自社商品に加え、他社向け原料販売とOEM拡大を通じて、微細藻類の生産量拡大を目指す

当社の技術力 - タンク培養によるスケールアップと低コスト化

バイオ燃料用藻油生産に向けたスケールアップと低コスト化のステップとして、
食品・ファインケミカル・機能性肥料/飼料領域をターゲットとしたタンク培養を強化



当社の技術力 - ゲノム編集技術

国産ゲノム編集技術を用いた品種改良の成功で産業展開が目前、次の課題は用途開発

ゲノム編集と遺伝子組み換えの違い

ゲノム編集



狙った遺伝子を切る



自然界でも存在する可能性のある生物

遺伝子組み換え



他の種から遺伝子を導入



自然界には存在しない新しい植物

遺伝子組み換えよりも精度と安全性が高く、実用化しやすい

技術開発

- 2024年度：Cas9に続きCas12aを用いた**高効率ゲノム編集技術**を確立*1
- 2025年度：国産ゲノム編集技術である**CRISPR-Cas3法***2を用いたゲノム編集に成功*3

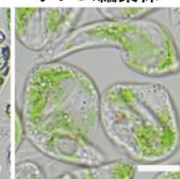
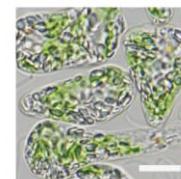
➡ 権利関係が明確で、より迅速な産業展開が可能に

用途開発

バイオ燃料

野生株

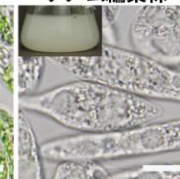
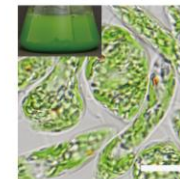
EgGSL2
ゲノム編集株



パラミロン形成不全

野生株

EgcrfB
ゲノム編集株



白色化ユーグレナ

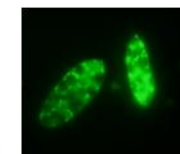
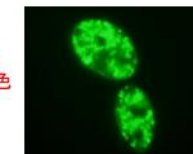
ヘルスケア



拡大図
脂質
光染色

Cas3によるゲノム編集株
(GSL2破壊)

タンパク質高蓄積
ユーグレナ



野生株

PNO破壊株

ワックスエステル低蓄積
ユーグレナ

➡ ファイン
ケミカル
用途開発
も視野

*1: 理化学研究所との共同研究、「微細藻類ユーグレナのゲノム編集技術を拡張（2024/2/1）」（<https://www.euglena.jp/news/20240201-2-2/>）

*2: CRISPR-Cas9法と類似した技術的特徴を持つ技術で、大阪大学発バイオベンチャー企業であるC4U社が再実施権付独占許諾権を有する

*3: C4U社との共同研究、「国産ゲノム編集技術CRISPR-Cas3を用いたユーグレナの品種改良に成功」（<https://www.euglena.jp/news/20250417-1/>）

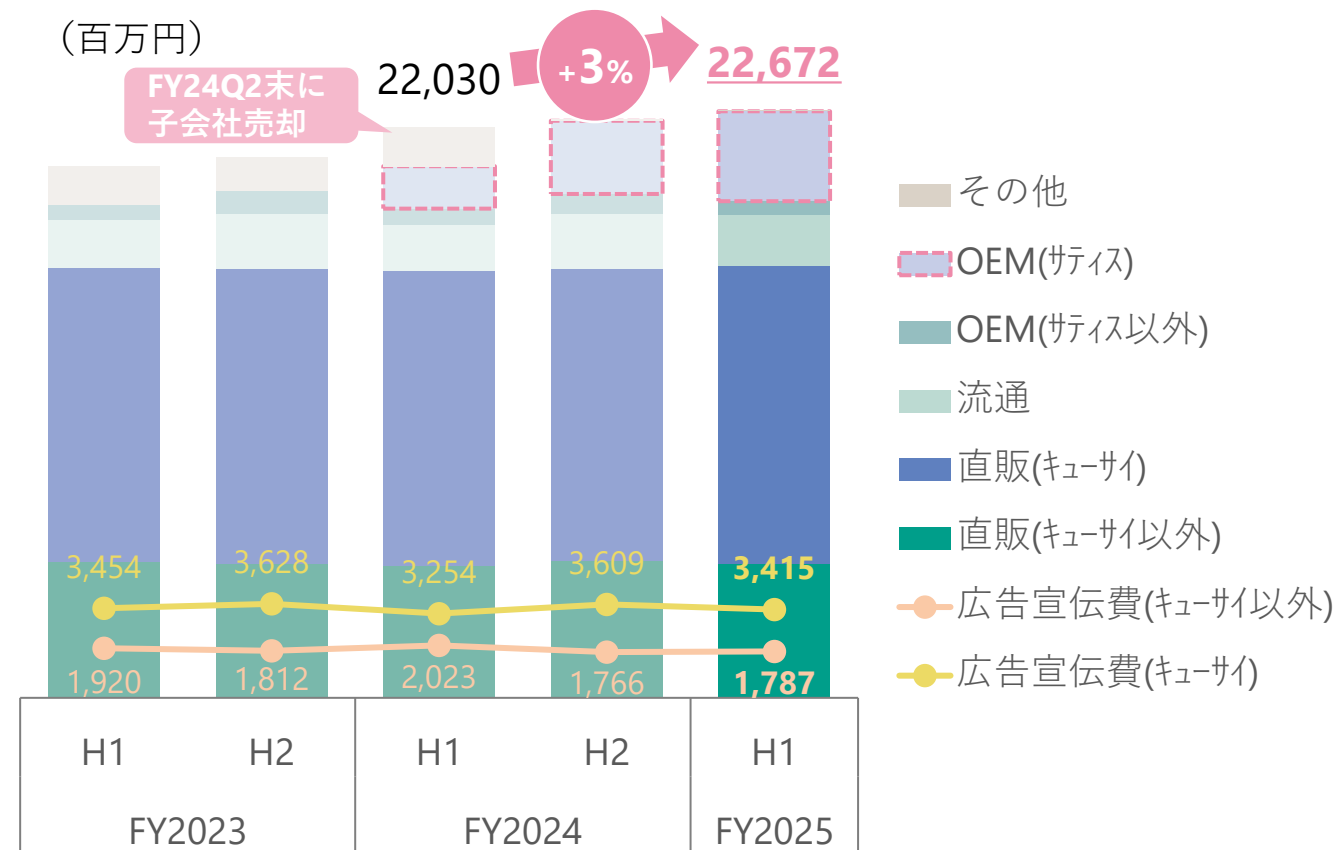
ヘルスケア事業

業績トレンド - 売上高、調整後EBITDA

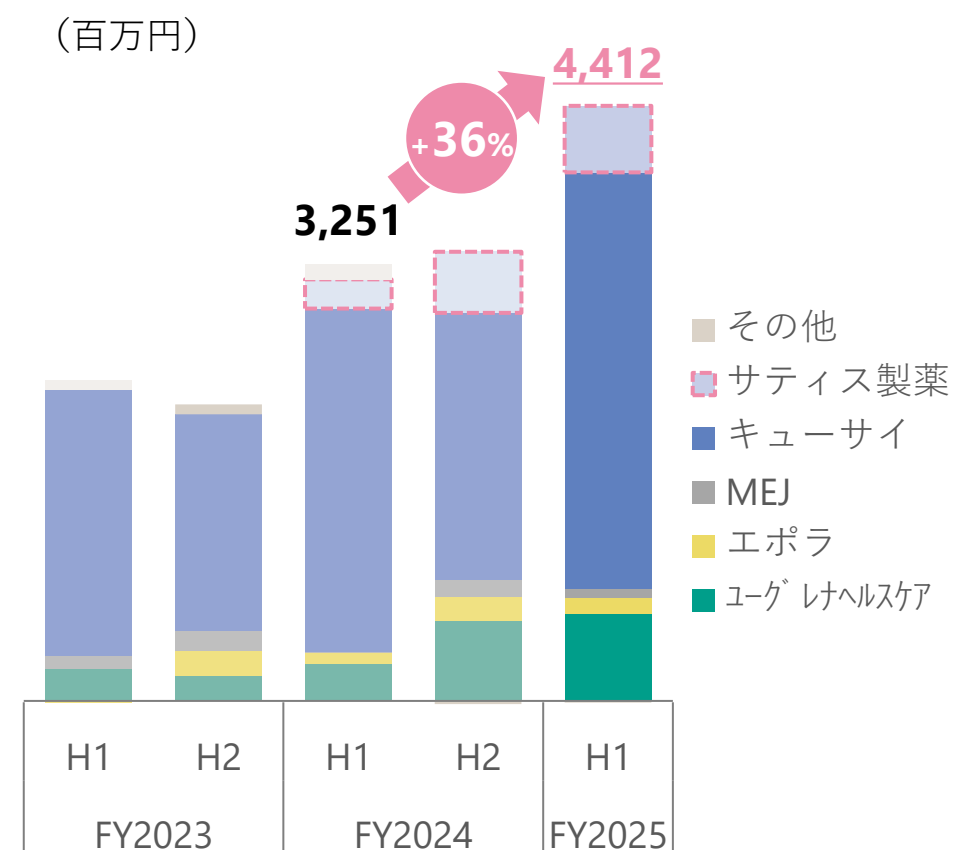
ユーグレナヘルスケアとキューサイの伸長で調整後EBITDAが大幅拡大

サティス製薬の連結化と事業成長も売上高・調整後EBITDA共に貢献

売上高



調整後EBITDA



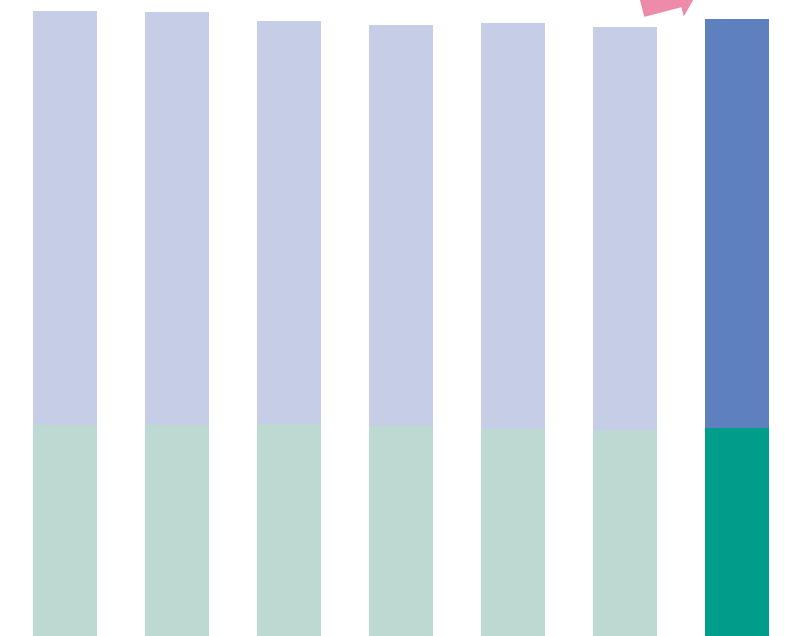
直販定期顧客数 - 主要ブランド別トレンド

効率の良いブランドに広告投資をアロケーションし、利益重視の経営を推進

グループ直販定期顧客数推移

コラリッチ・epoの
増加転換により回復基調に

70万人



Q'SAI

1-Grace
épauler
mej

主要ブランド別トレンド (FY2025Q2)



ひげサポート
コラーゲン

投資効率改善傾向
定期顧客数は前Q比微増



cola-rich

リニューアルが奏功
定期顧客数は前Q比
増加に転換

コラリッチ
増加転換



ザ・ケール

定期顧客数は前Q比微減
戦略的に投資を抑制しつつ、
緩やかな推移を図る



からだにユグレナ

高投資効率のオフライン
媒体への投資を強化
定期顧客数は長期継続的
に安定拡大



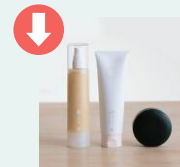
CONC

獲得効率は好調継続で
投資拡大中。定期顧客数
は毎四半期大幅拡大



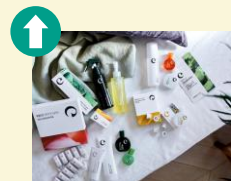
one

戦略的に広告投資を抑制
定期顧客数は減少



akyrise

投資効率が改善せず苦戦
定期顧客数は減少傾向



epo

増加転換

ヘアケア商品のオンライン
投資効率が好調
定期顧客数は増加に転換



C COFFEE

テスト投資を継続中で
広告投資抑制。定期顧客数
は減少継続

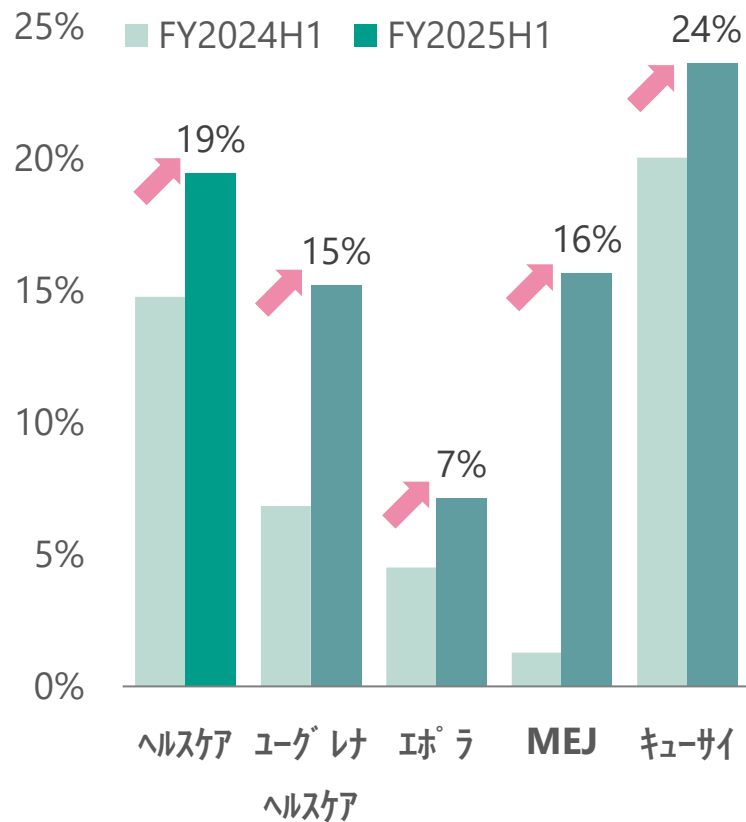
1-Grace

①収益構造の筋肉質化 - 黒字定着

調整後EBITDAマージンがヘルスケア各社で改善

様々な収益構造改善策により、広告宣伝費投資を維持しながら黒字幅を拡大

調整後EBITDAマージン



グループ横断での収益構造改善策

購入単価アップ 1-グレ[∞] Q'SAI グループ会社工場の収益性改善

- からだにユーグレナ定期購入の価格改定（2024年11月～）
- コラリッチの価格改定（2025年1月～）

- 各工場間のナレッジシェアで生産性改善
- グループ内外からの製造受託拡大で稼働率改善



粗利改善

販売費削減

ヘルスケア各社で販売費削減を実施

- 同梱物など販促物の見直しと発注先の最適化
- コールセンターの内製化と稼働率の向上
- 隔月定期増加に伴う配送料の削減



②成長ブランドとファン顧客の育成 - マイクロニードル軸

好調が続くノック注入型マイクロニードル商品の横展開に注力

ナイアシンアミド高濃度配合の美白用途商品の新発売



チャネルの拡大

- 流通チャネル向け「**CONC LABO**」を全国ほぼ全てのLOFT・PLAZAおよびイオンの一部店舗に導入済
- ドラッグストア展開に向けて準備中



用途の拡大

1-ヴレ

- ナイアシンアミド高濃度配合の美白用美容液「**CONCブライトインジェクション**」を新発売



épauler

- 頭皮用美容液「**FUSARI スカルプインジェクション**」の投資拡大

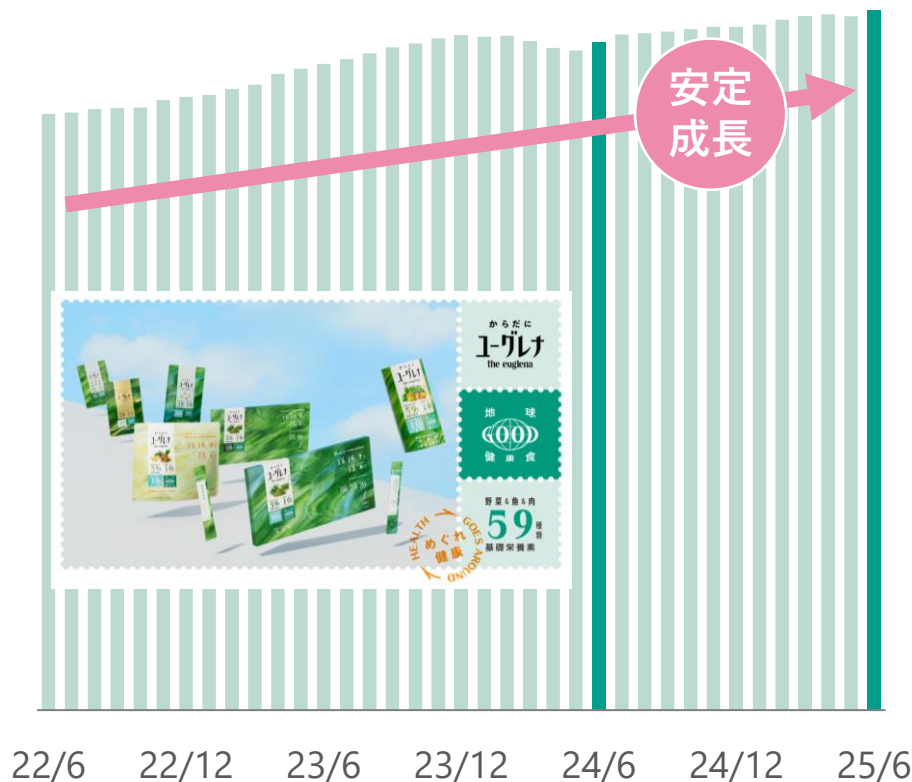


②成長ブランドとファン顧客の育成 - ユーグレナ軸

各種CRMにより既存商品の継続率が高水準を維持。子育て世代向け商品で新販路も開拓

からだにユーグレナ

定期顧客数の推移



1-グレナ

*1: からだにユーグレナの中で一番人気の商品

からだにユーグレナの競争優位性

- からだにユーグレナグリーンパウダー乳酸菌*1の3か月定期継続率が前年比で約5pt改善
- 各種CRM（おいしい飲み方や商品特徴の伝達、好みに合わせた他商品の提案など）が顧客の継続摂取を後押し

継続率の高さ



新販路開拓

- 2024年に発売した子育て世代向け商品は、ECモールを活用した販路を開拓。過去累積売上のECモール比率は57%



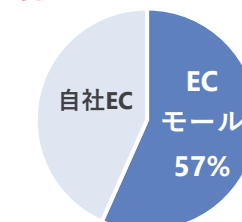
2024年8月発売



2024年9月発売



2024年11月発売



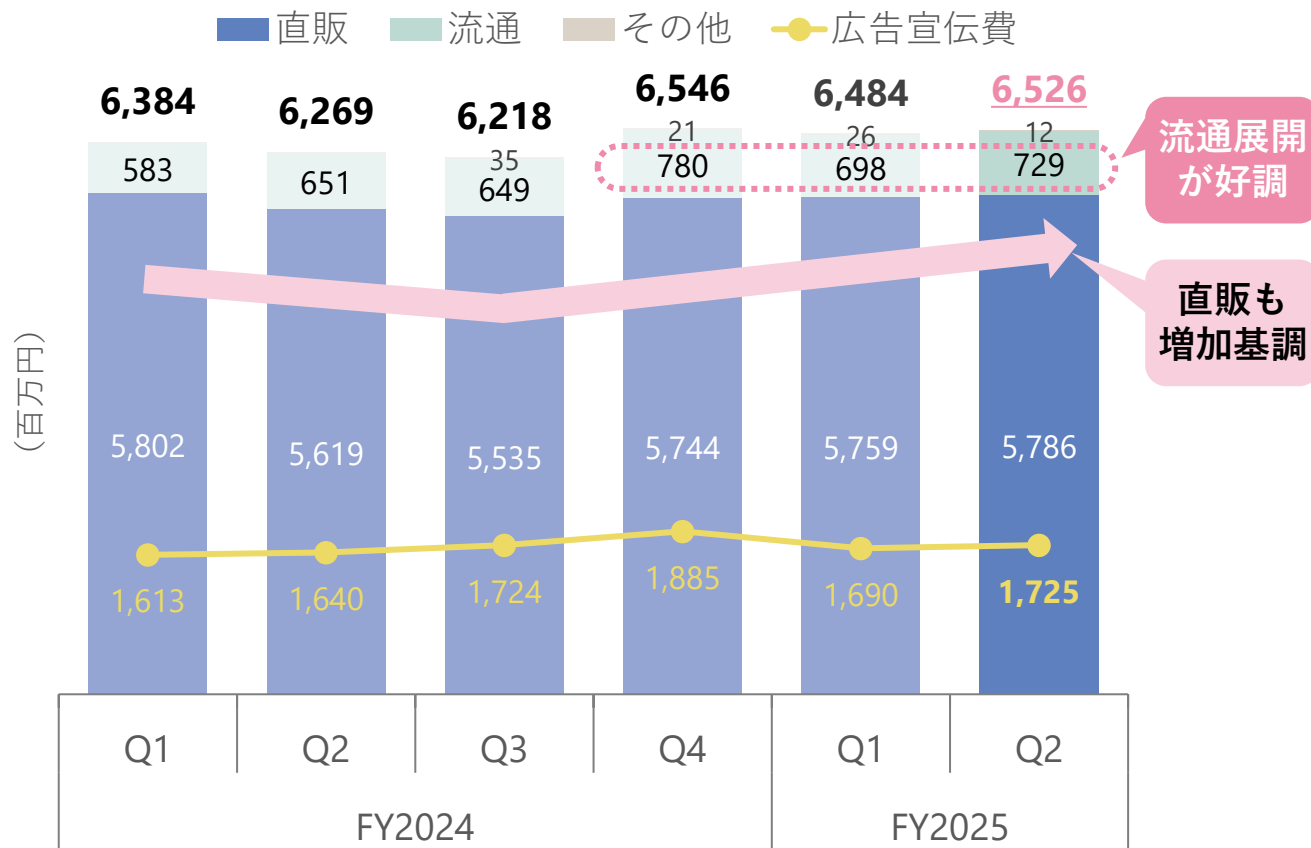
販路別累積売上比率

②成長ブランドとファン顧客の育成 - キューサイ Q'SAI

直販の定期顧客数増加と流通チャネルの拡大により売上好調

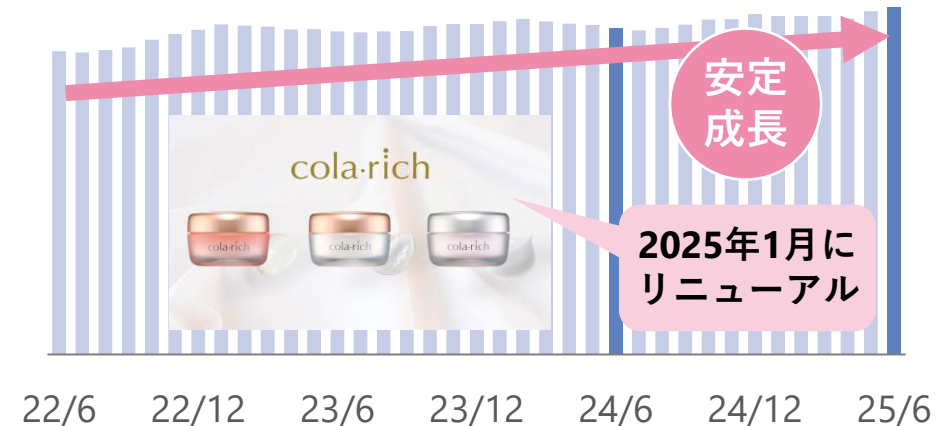
新ブランド育成に向けた投資も実施

チャネル別売上高推移



コラリッチ

定期顧客数の推移



投資ブランド

- 新ブランドの育成に向け、投資拡大予定



コラリッチ ソア



BIONIA

③メーカー機能の強化 - 国内の進捗

機能性素材としてのユーグレナの認知拡大やOEM展開に注力

サティス製薬グループの売上も好調

素材認知とOEM先の拡大

機能性素材としてのユーグレナの認知拡大

- アリナミン製薬社が「アリナミン®ナイトリカバー 快眠ユーグレナ」を全国ドラッグストアや主要コンビニ店舗に導入
- インバウンド需要の取込、Amazon販売も開始し順調に推移



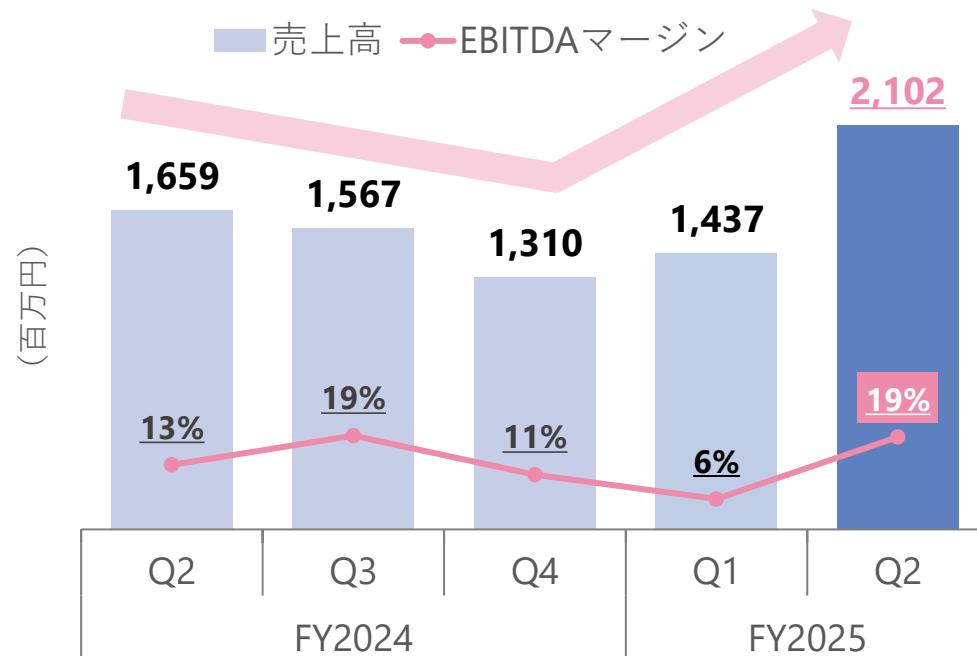
OEM先の拡大

- ドラッグストア向けOEMの継続強化
- 新規開拓も進展中



サティス製薬グループ売上推移

- 既存顧客からの受注が拡大
- グループ内での製造受託や研究の連携も推進中



今後に向けて - 海外展開のポテンシャル

世界的な藻類市場の成長を背景に、ユーグレナやクロレラの粉末卸と商品展開の両軸で海外市場を開拓



クロレラ粉末



ユーグレナ粉末

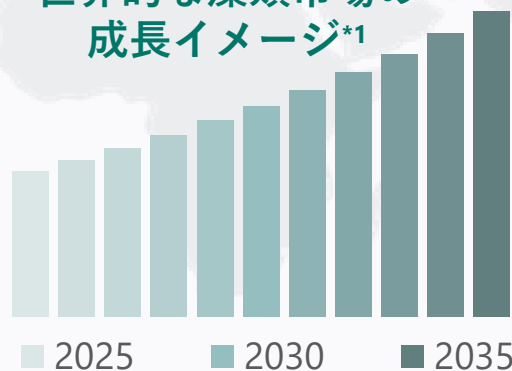


ユーグレナグループの商品

機会

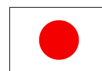
- スピルリナなど世界的な藻類市場の成長
- アジアにおける健康志向の高まり
- Made in Japan商品の逆輸入モデルの可能性

世界的な藻類市場の
成長イメージ*1



*1: 当社調べ

1-グレ[∞]



当社のケイパビリティ

- クロレラ原料は世界約40カ国への展開実績あり
- 米国GRAS認証・ハラール認証・コーシャ認証・ASC-MSC海藻認証で潜在市場にアクセス可能
- バイオ燃料商業プラントを有するマレーシアをアジア市場・イスラム市場への戦略拠点へ

バイオ燃料事業

ビジネスモデル - 商業化のイメージと今後のステップ

2025年7月に商業プラント出資比率が15%で確定し、製造面の主要マイルストーンを達成
約10万KL/年の取扱いに向けて、今後は原料調達/生産面と販売面における体制構築に注力

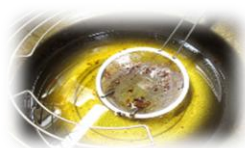


1 原料調達/生産 - 2025年進捗

バイオ燃料取扱量10万KLに向けて、原料開発・調達に注力

バイオ燃料向け原料調達

産業廃棄油



- 廃食油回収及び油糧作物栽培の調査*1
- 貧困・失業・CO₂排出ゼロに資するソーシャルビジネスを目指す



現地ガジプール農業大学と共同研究に取り組む覚書締結

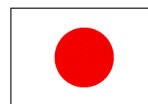
藻類培養

藻類培養



PETRONAS Research社との共同研究

- バイオ燃料原料用微細藻類の大規模生産技術に関する包括的共同研究契約を締結



藻類培養向け糖源調査 @マレーシア

- パーム農業残渣バイオマスの活用可能性調査*2
- UCO代替に資する藻油生産に向けバイオマス糖源確保を目指す

*1: 当社の「バングラデシュ人民共和国／バングラデシュにおけるSAF向け原料サプライチェーン構築に向けた調査事業」（実施期間：2025年2月上旬～2025年12月、主な実施内容：UCO回収事業／油糧作物の栽培事業の調査）が、経済産業省「令和5年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費助成金」に採択

*2: 当社の「マレーシア／微細藻類培養の糖源としてのパーム農業残渣バイオマスの活用可能性調査事業」（実施期間：2025年4月～2026年2月、主な実施内容：バイオマス賦存量調査／資源化プロセスと事業モデルの検討及び資源化技術の適用性の調査）が、経済産業省「令和5年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費助成金」に採択

2 商業プラント - 出資比率15%への引上げ完了

2025年7月に15%出資が完了、年間約10万KLのバイオ燃料取り扱いが可能に

当社の収益ポテンシャル*1は、売上高300億円規模、税引前利益60億円以上



- PETRONAS社のPengerang Integrated Complex (PIC)内に建設
- 2025年より建設着手済み、2028年下期迄の稼働開始を予定
- プロジェクト金額は約13億ドル



(3社合弁会社)

当社シェア15%確定で
年間約10万KLの
取り扱いが可能に

アジア最大級のバイオ燃料製造プラント

- 製造能力は約72.5万KL/年、需給に応じてSAFとHVOをフレキシブルに生産
- 原料供給ソースや主要な国際航路にアクセスしやすい地理的優位性



建設現場（2025年6月時点）

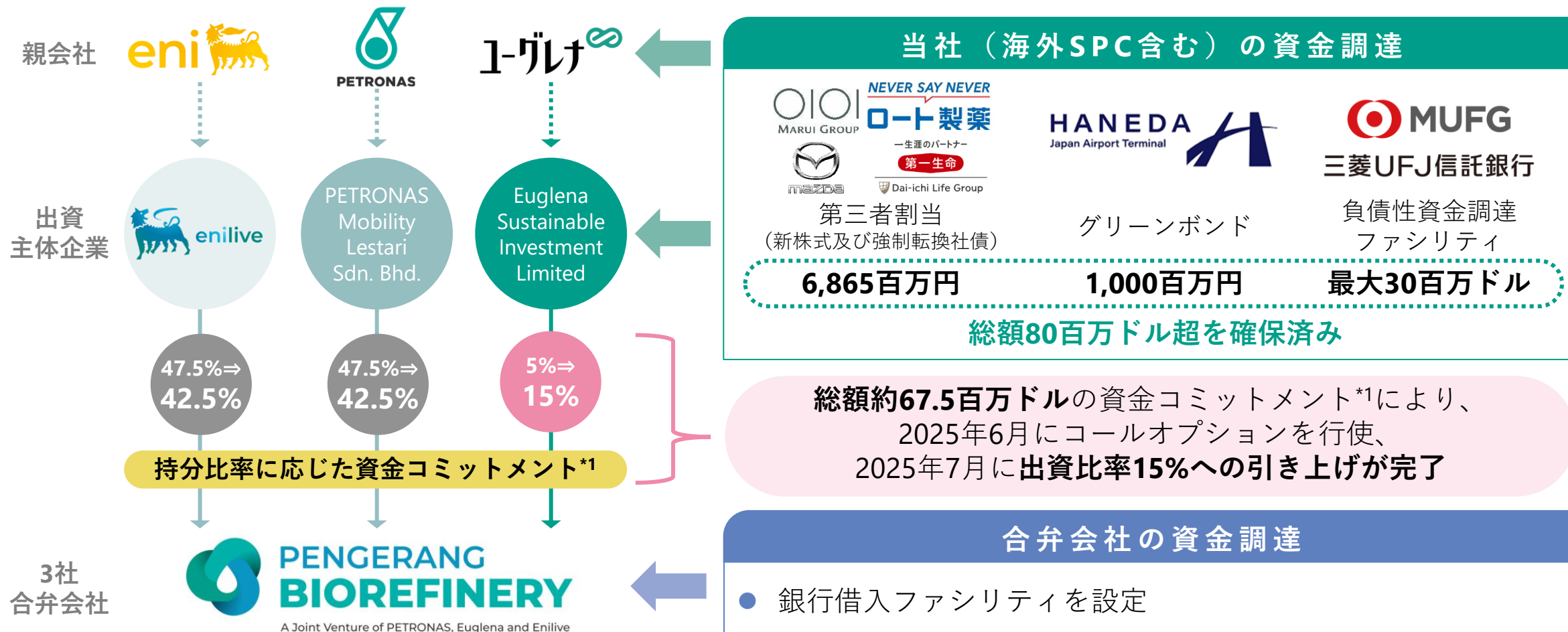
当社の収益ポテンシャル*1

- 売上高（原料/製品トレーディング）：
300億円/年規模
- 税引前利益（資金調達影響を除く）：
60億円/年以上 + トレーディングからの利益

*1: バイオ燃料取扱量約10万KL/年相当、バイオ燃料価格@300円/L、本合弁会社の純利益率20%以上・配当性向100%（資金調達影響は加味せず）という前提条件のもと、例示を目的として作成した当社独自のシミュレーション値。当社又はプロジェクトの正式な予測値・目標値ではなく、今後の事業進捗や市場動向により変動

2 商業プラント - 出資比率15%引上げに向けた資金調達スキーム

出資比率15%引上げに伴い、総額約67.5百万ドルの資金コミットメント*1を拠出



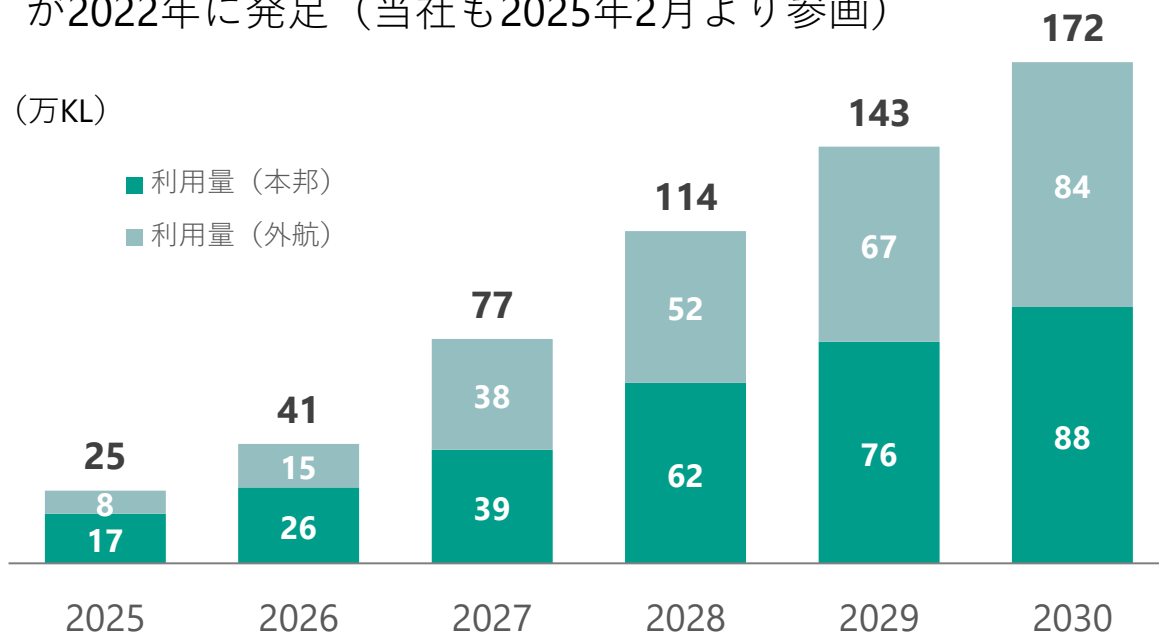
3 国内供給 - SAF需要への対応



2030年に見込まれる172万KLの国内SAF需要に対応すべくパートナーシップを推進

日本のSAF需要見通し*1

- 経済産業省は、2030年に国内で生産・供給されたジェット燃料のCO₂排出量2019年比5%以上削減を石油元売り企業に義務付ける方針を提示
- 持続可能な航空燃料（SAF）の導入促進に向けた官民協議会が2022年に発足（当社も2025年2月より参画）



ユーグレナ社の取組

羽田空港におけるパートナーシップ



- SAF供給・販売の事業化に向けたサプライチェーン構築の共同検討
- グリーンボンド（10億円）の発行

➡ 最大5万KL/年の
SAF供給体制の構築を目指す

当社の供給実績*2



商業用
ジェット機



成田空港
ハイドラント



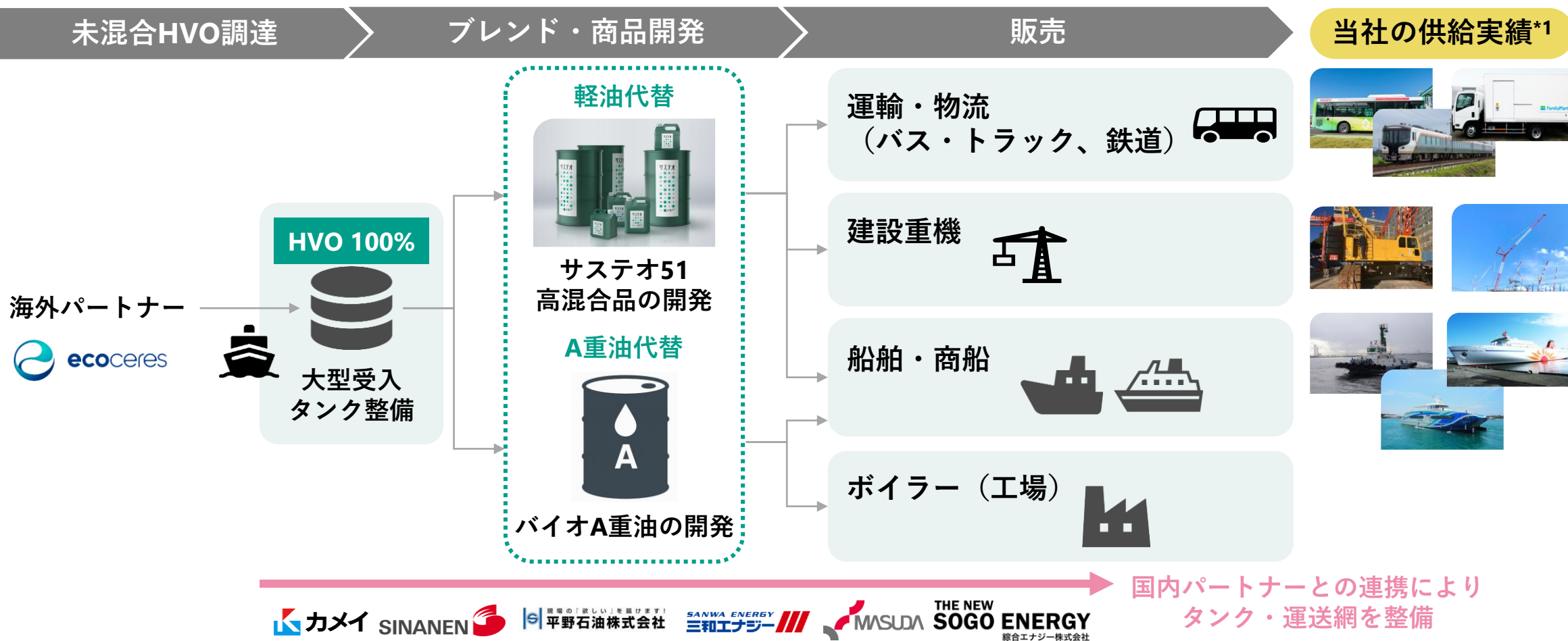
政府専用機



航空自衛隊
戦闘機

3 国内供給 - HVOサプライチェーンの構築

電化が困難な液体燃料領域（**Hard-to-Abate**）における需要拡大を目指す
流通量の大型化による輸送コスト低減、商品の多様化により販売網を拡大



*1: 当社のバイオ燃料製造実証プラント（横浜市鶴見、2024年1月に稼働終了）での製造品

3 国内供給 - HVO普及に向けた取り組み

改正省エネ法*1の対応に利用できるサステオ51*2を開発、HVO普及を加速

実証と社会実装に向け、東京都「新エネルギー推進に係る技術開発支援事業*3」に代表企業として採択

サステオ51の優位性

- 改正省エネ法にて、非化石エネルギー転換に関する中長期計画および定期報告の提出を義務化
- EV、PHEV、水素燃料自動車（FCV含）と並び、**サステオ51使用車は「非化石エネルギー自動車」に該当**
- サステオ51の製造方法は、**特許申請中**

サステオ



三井住友銀行にて、サステオ51使用のマツダ車（ディーゼル車）を社用車として導入、BCP観点でも活用

新たに東京都助成金を獲得

- 前年助成事業*4に続き国内HVO普及を推進
- 助成金活用により**ユーザーのHVO導入負担も軽減**

1-グレイ

各社の役割イメージ

全体統括、新規HVO混合燃料・サービス開発

カメイ株式会社

シナネン株式会社
SINANEN

現場の「欲しい」を届けます！
平野石油株式会社

東急バス

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

ISUZU

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

朝日興産

カメイ株式会社

シナネン株式会社
SINANEN

供給体制整備

新規HVO混合燃料の実証利用

構成企業9社によるコンソーシアムを牽引

*1: エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（2023年4月施行）。非化石エネルギーを含めた全てのエネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換を求めるとともに、電気の需要の最適化を促す。中長期計画及び定期報告提出の義務化対象者は、特定事業者等、特定貨物/旅客輸送事業者、特定荷主

*2: HVO51%混合軽油

*3: 支援対象となる取組は、新エネルギー及び新エネルギーの利活用・普及に資する製品・サービス等に係る調査研究、技術開発、実証、実装等の取組
支援対象者、支援期間は、交付決定日から3年以内。助成限度額、助成率は、1グループあたり最大30億円、対象となる経費の3分の2以内

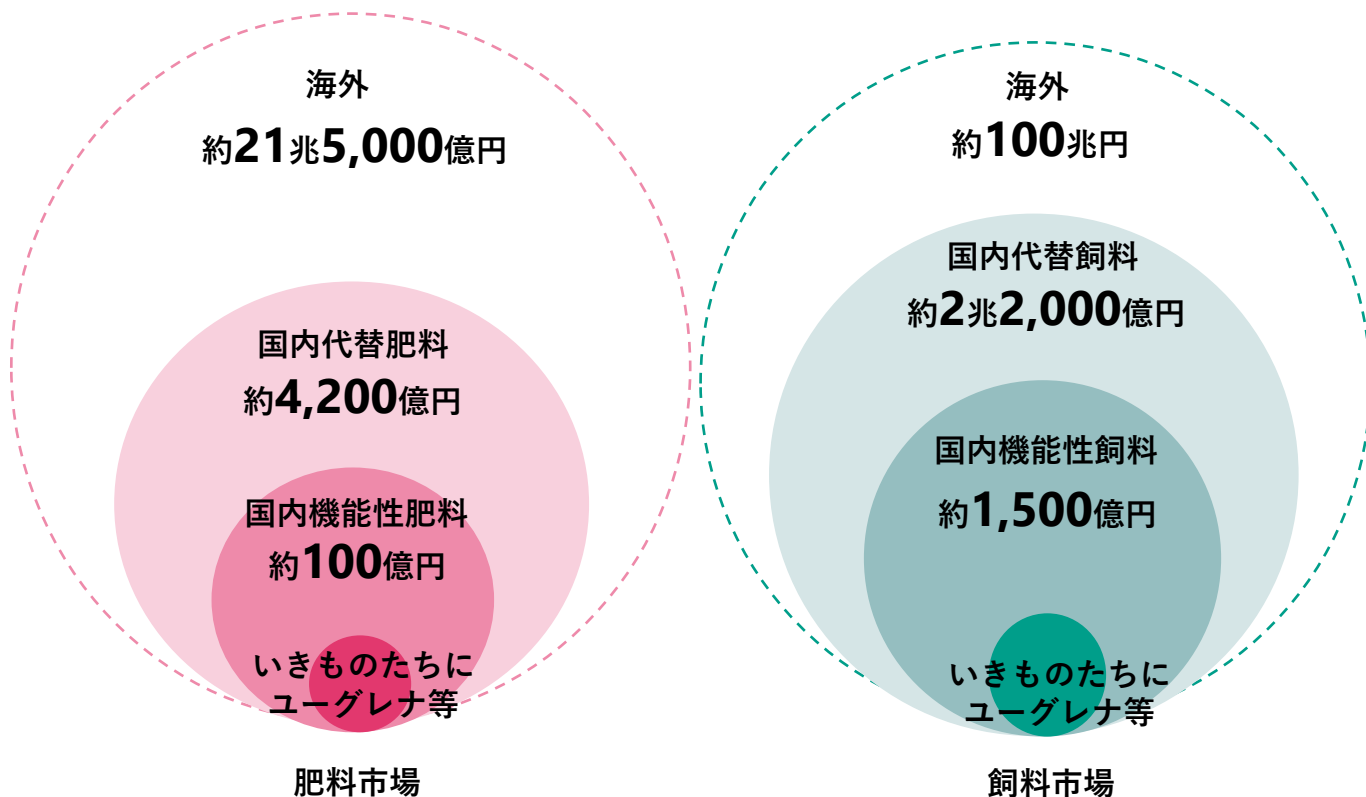
*4: 東京都「バイオ燃料活用における事業化促進支援事業」に採択 (<https://www.euglena.jp/news/20240830-2/>)

サステナブル・アグリテック事業

第3の柱 - 市場規模と成長イメージ

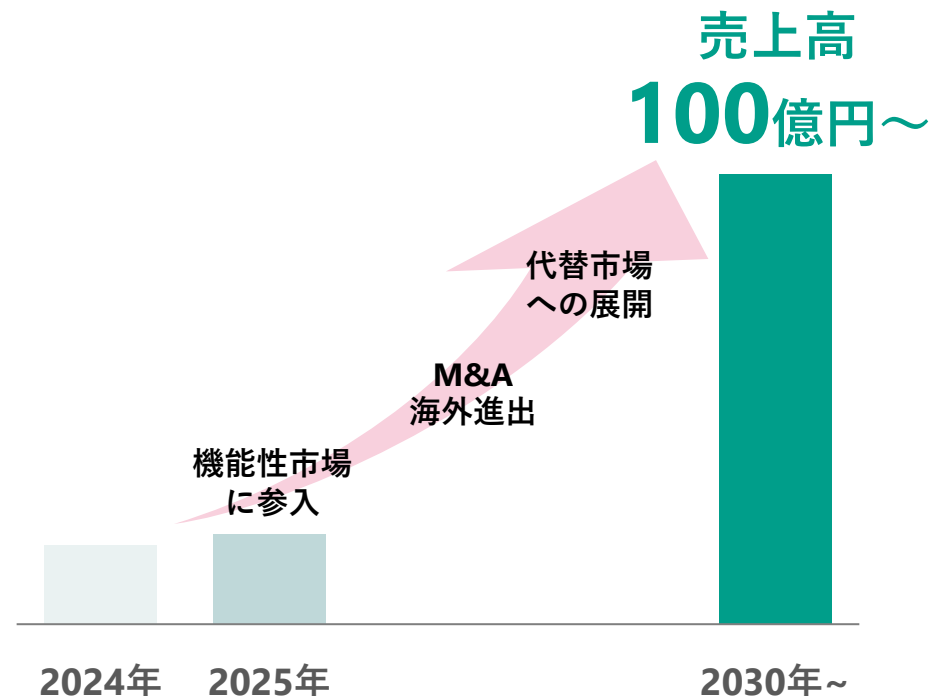
ユーグレナを中心とした微細藻類入り肥料・飼料の研究開発を推進
少量・高単価の機能性肥料・飼料市場から参入し、中期的に代替市場への展開を目指す

市場規模のイメージ*1



中期的な成長イメージ

新商品の開発、M&A、海外進出、
他事業とのシナジーを軸に事業拡大を狙う



微細藻類入り機能性肥料・飼料

これまでの研究成果をもとに、機能性肥料・飼料の売上創出を目指す

機能性肥料・飼料の主な研究成果

肥料で土壌・植物を健康にする

微細藻類を土壌に加えることで、生育が良くなることを確認



水菜: 生鮮重の増加を確認

ペチュニア: 開花期間が長くなることを確認

飼料で家畜を健康にする

微細藻類入り飼料の給与で成長と免疫機能の向上を確認



ニワトリ

抗体産生が**1.2倍** (免疫機能)

体重が**1.2倍** (成長)



カンパチ

増重率*1が**7%増** (成長)

血液中リゾチーム活性*2が**1.3倍**

※写真はイメージ



ユーグレナ入り肥料・飼料
の自社ブランドとして
「いきものたちにユーグレナ」
をローンチ



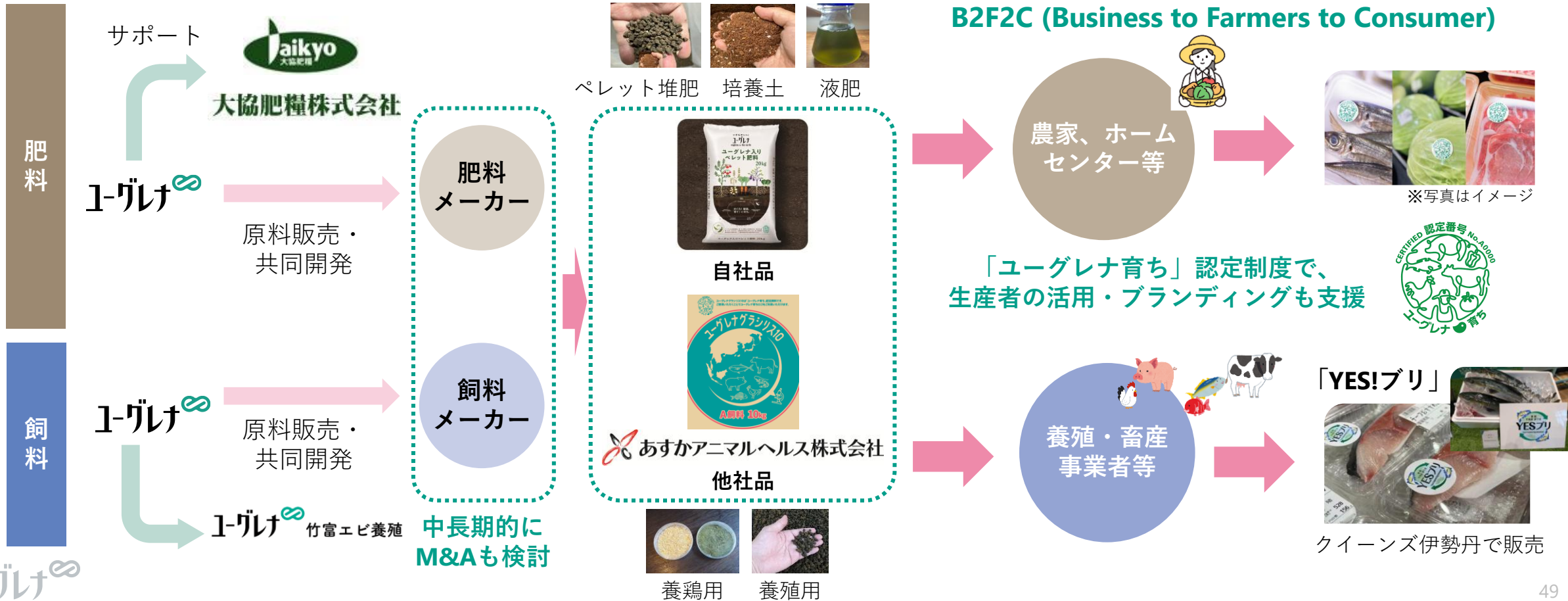
ユーグレナ肥料・飼料を
使用して育てた生産物に対する
「ユーグレナ育ち」認定制度
もローンチ

サプライチェーン構築 - パートナーシップの活用

製造・販売はグループ会社とパートナーシップを活用し、販売網を開拓

中長期的にはM&Aによる製販機能強化も検討

製造・販売



バングラデシュ事業

バングラデシュ事業

Grameen euglena

ソーシャルビジネスを軸に事業ポートフォリオを多様化

貧困・失業・CO₂排出ゼロに資するソーシャルビジネスを目指す

ウェルネス向上

- ユーグレナGENKIプログラムの継続と
現地給食事業等への横展開
- 富裕層・中間層向けヘルスケア商品販売



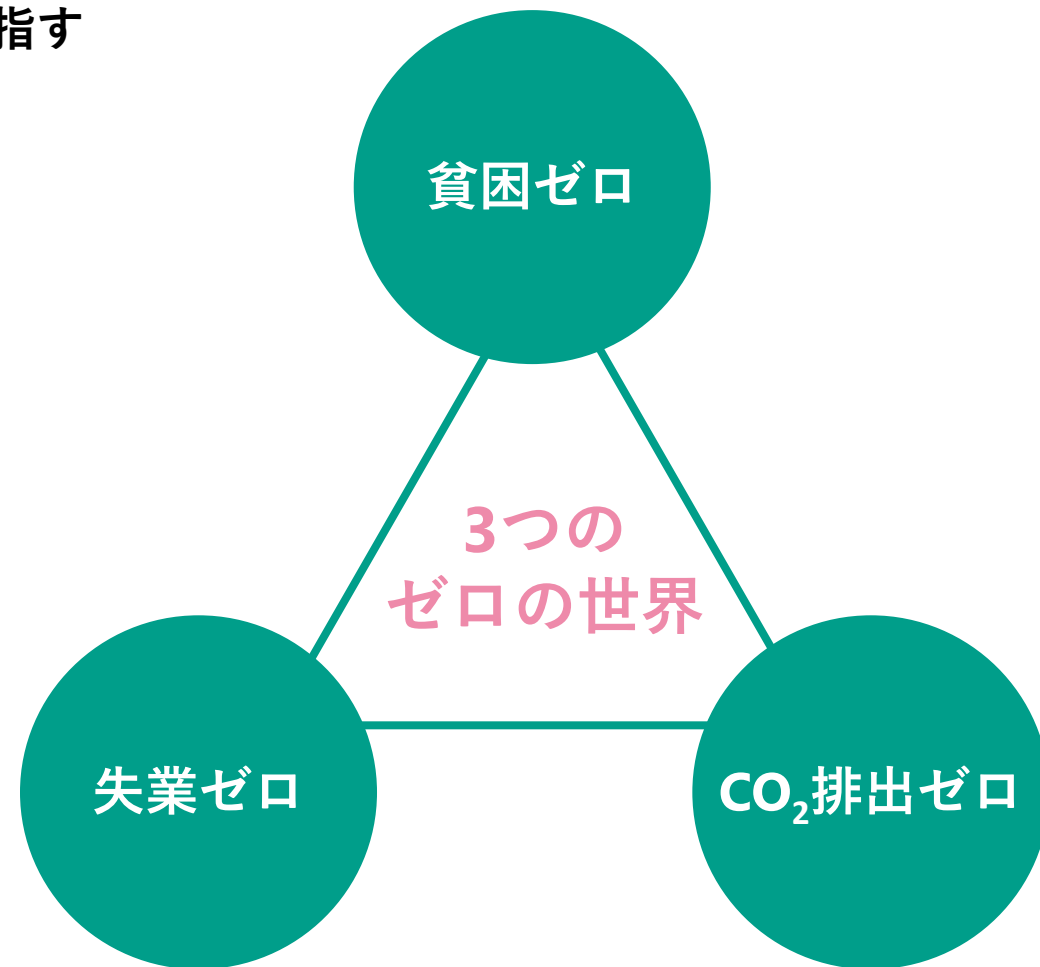
農作物のソーシャル調達

- 日本企業の農作物輸入ニーズを、
バングラデシュ産品で代替
 - 緑豆からゴマ等に多様化



バイオ燃料原料のソーシャル調達

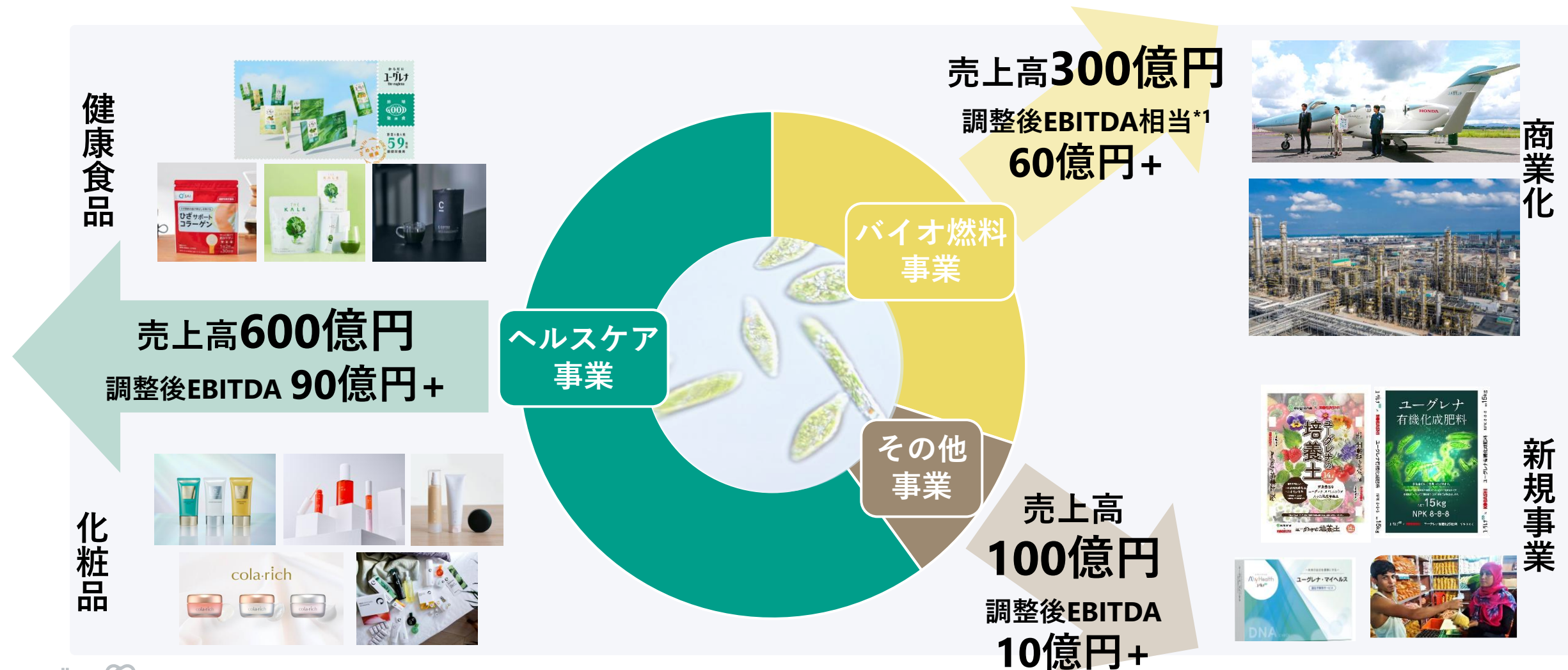
- SAF向け原料サプライチェーン構築に向けて、
助成金を活用し実現可能性調査*1を開始
 - 廃食油回収や油糧作物栽培の可能性



2030年に向けて

2030年に向けた成長イメージ - 事業ポートフォリオ

既存事業の成長と新たな売上の柱となるシーズの選択肢を確保



補足資料： 業績サマリー

会社概要



いきる、たのしむ、サステナブル。

創業	2005年8月9日
本店	東京都港区芝5-29-11
資本金	163億7,338万円（2025年6月末時点）
従業員数*1	1,168名（連結）（2024年12月末時点）
グループ会社	連結子会社16社（うち、キューサイ・グループ4社、海外合併会社1社）（2025年6月末時点）
フィロソフィー	Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）
パーパス	人と地球を健康にする
上場市場	東京証券取引所プライム市場
証券コード	2931
株主数	112,402名（2025年6月末時点）

連結損益計算書

	2024/12期															2025/12期													
	連結合計					うちユーグレナ*1										うちキューサイ					連結合計			うちユーグレナ*1			うちキューサイ		
(百万円)	1Q	2Q*4	3Q	4Q	合計	1Q	2Q*4	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	合計	1Q	2Q	合計	1Q	2Q	合計					
売上高 (新区分ベース)	11,154	12,495	11,624	12,345	47,619	4,770	6,225	5,406	5,800	22,201	6,384	6,269	6,218	6,546	25,418	11,936	12,618	24,554	5,452	6,092	11,544	6,484	6,526	13,010					
直販	8,287	8,208	8,132	8,449	33,076	2,485	2,590	2,597	2,705	10,377	5,802	5,619	5,535	5,744	22,700	8,277	8,427	16,704	2,518	2,641	5,159	5,759	5,786	11,545					
流通	854	915	949	1,150	3,868	271	264	301	370	1,206	583	651	649	780	2,662	976	963	1,939	278	234	512	698	729	1,427					
OEM・原料・海外	327	1,930	1,793	1,802	5,852	327	1,930	1,762	1,785	5,804	0	0	31	17	48	1,646	2,347	3,994	1,631	2,337	3,968	15	10	25					
その他	1,687	1,441	750	944	4,822	1,687	1,441	746	939	4,814	0	0	3	4	8	1,036	881	1,917	1,025	879	1,904	11	2	13					
売上原価	3,130	4,085	3,401	3,735	14,351	2,002	2,945	2,270	2,477	9,694	1,128	1,140	1,131	1,258	4,657	3,600	3,805	7,405	2,470	2,697	5,167	1,130	1,108	2,237					
売上総利益	8,024	8,410	8,223	8,610	33,268	2,768	3,280	3,136	3,323	12,507	5,256	5,130	5,087	5,288	20,761	8,336	8,813	17,149	2,982	3,394	6,376	5,354	5,418	10,773					
粗利率	72%	67%	71%	70%	70%	58%	53%	58%	57%	56%	82%	82%	82%	81%	82%	70%	70%	70%	55%	56%	55%	83%	83%	83%					
(内 ヘルスケア事業)	76%	70%	74%	73%	73%	65%	56%	64%	64%	62%	82%	82%	82%	81%	82%	74%	73%	74%	62%	60%	61%	83%	83%	83%					
販売費及び一般管理費	7,722	8,512	8,264	8,470	32,967	3,198	4,050	3,691	3,520	14,459	4,523	4,461	4,573	4,950	18,508	7,718	7,795	15,512	3,300	3,393	6,694	4,417	4,401	8,818					
販売費	4,967	5,161	4,927	5,211	20,266	1,761	2,013	1,771	1,803	7,348	3,206	3,148	3,156	3,408	12,918	4,737	4,826	9,563	1,656	1,757	3,413	3,081	3,069	6,150					
(内 広告宣伝費)	2,596	2,771	2,657	2,802	10,825	983	1,130	933	916	3,962	1,613	1,640	1,724	1,885	6,863	2,562	2,686	5,248	872	961	1,833	1,690	1,725	3,415					
人件費	1,141	1,445	1,500	1,561	5,646	651	951	888	899	3,389	491	494	611	661	2,257	1,367	1,363	2,730	859	823	1,682	509	540	1,048					
管理費	1,433	1,682	1,624	1,472	6,211	621	880	846	640	2,987	812	802	777	832	3,224	1,447	1,416	2,862	655	630	1,285	792	785	1,577					
研究開発費	181	224	213	225	844	166	207	185	177	735	15	17	28	48	109	167	190	357	131	183	314	36	7	43					
営業損益	302	-102	-40	141	301	-431	-770	-555	-197	-1,953	733	668	514	338	2,253	618	1,018	1,637	-319	1	-318	937	1,017	1,954					
調整後EBITDA*2	1,071	1,051	1,125	1,083	4,330	-191	-147	82	214	-42	1,262	1,198	1,043	869	4,372	1,546	1,962	3,508	82	419	501	1,464	1,542	3,006					
営業外損益	-36	-3	-153	323	131	67	99	-71	399	494	-103	-102	-82	-76	-363	-182	-282	-464	-80	-189	-269	-102	-93	-195					
(内 助成金収入)	23	25	50	4	102	22	22	50	3	97	2	3	0	1	6	4	22	27	4	20	23	1	2	3					
経常損益	266	-105	-193	464	432	-363	-671	-626	202	-1,459	630	567	432	262	1,891	436	736	1,173	-398	-188	-586	834	925	1,759					
特別損益	-482	-303	49	-1	-737	-482	-319	49	15	-737	0	16	0	-16	-0	-261	-2	-263	-261	-2	-263	0	0	0					
親会社株主に帰属する当期純損益	192	-519	-722	398	-651	na	na	na	na	na	na	na	na	na	na	-507	-52	-559	na	na	na	na	na	na					
【参考指標】																													
減価償却費*3	490	777	770	574	2,610	105	393	385	187	1,071	384	384	385	386	1,539	589	593	1,182	206	214	420	382	380	762					
(内 M&A関連)	360	611	610	439	2,019	48	299	298	127	773	312	312	312	312	1,246	439	438	877	127	126	254	312	312	623					
のれん償却額	246	244	244	244	978	103	100	100	100	404	143	143	143	143	573	244	234	477	100	90	191	143	143	287					

*1: 連結PLからキューサイ・グループPL（キューサイ・グループとその他グループ間の連結相殺反映後）を控除した金額で、グループ会社PLを含む
*2: 調整後EBITDAは当社独自の財務指標。計算式は、EBITDA(営業利益＋のれん償却費及び減価償却費)＋助成金収入＋株式関連報酬
*3: 調整後EBITDAの算出に使用した金額であり、連結キャッシュ・フロー計算書の数値とは異なる
*4: サティス製薬及び日本ビューテック連結化に伴い計上したのれんの識別可能資産（顧客関連資産、受注残）への配分が2024/12期3Qに完了。
2024/12期2Qは遡及修正後の数字

セグメント別PL

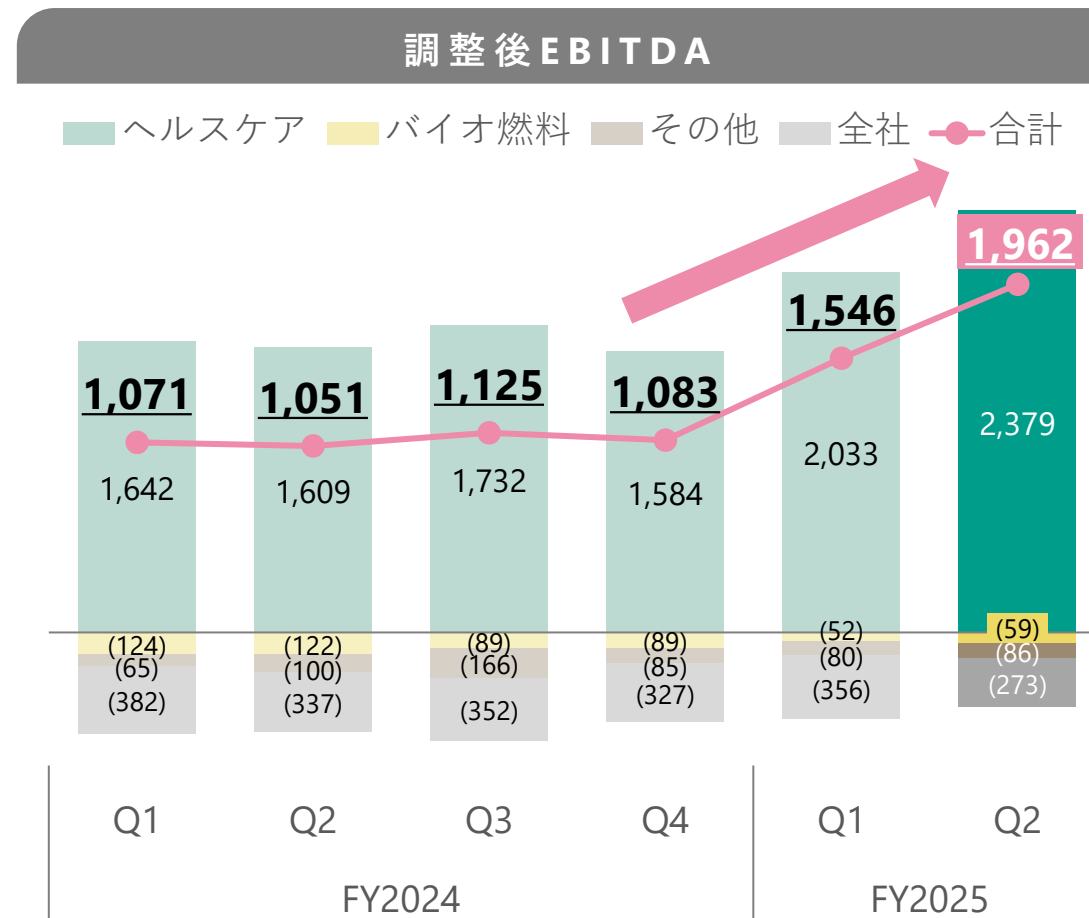
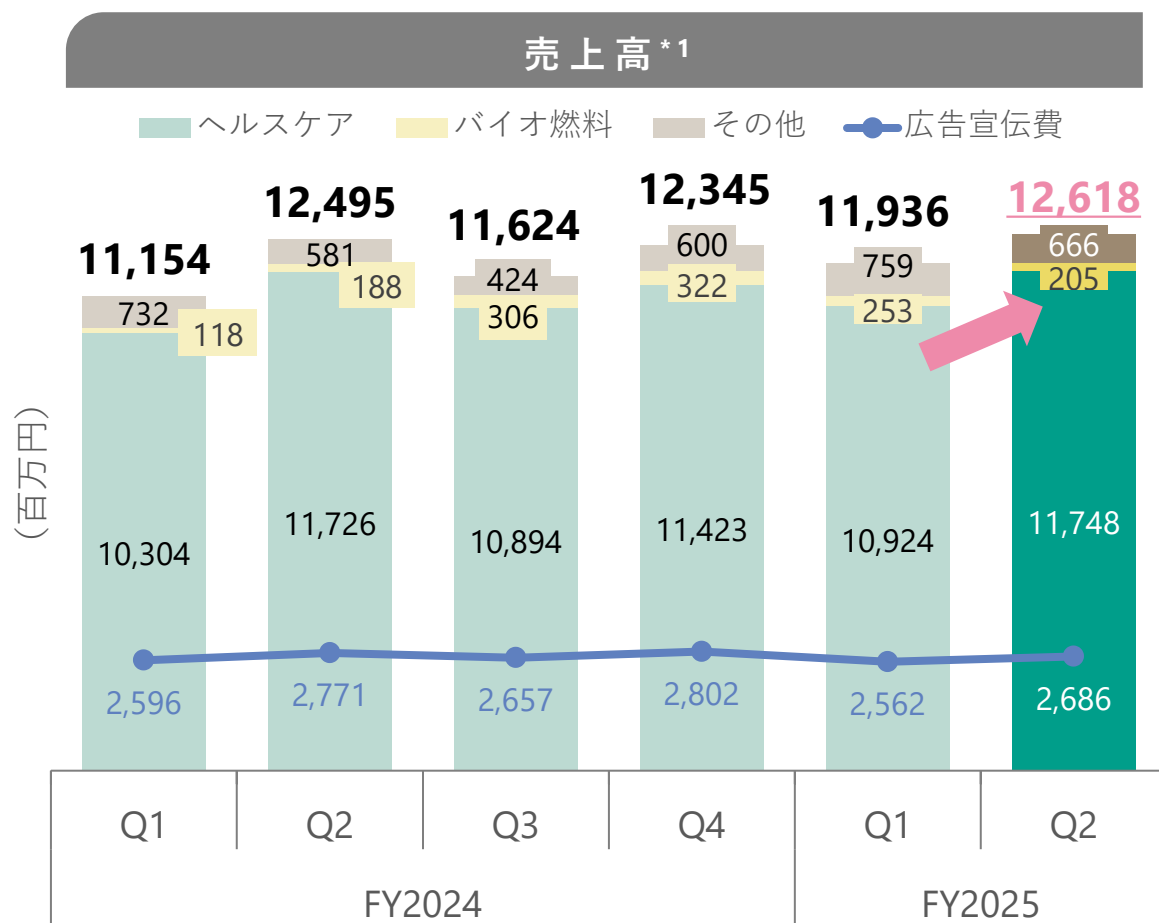
事業セグメント別内訳								
(百万円)	2024/12期					2025/12期		
	'24Q1	'24Q2	'24Q3	'24Q4	合計	'25Q1	'25Q2	合計
連結合計								
売上高	11,154	12,495	11,624	12,345	47,619	11,936	12,618	24,554
増減率	-10%	12%	-7%	6%	2%	-3%	6%	na
売上総利益	8,024	8,410	8,223	8,610	33,268	8,336	8,813	17,149
対売上高比率	72%	67%	71%	70%	70%	70%	70%	70%
調整後EBITDA	1,071	1,051	1,125	1,083	4,330	1,546	1,962	3,508
対売上高比率	10%	8%	10%	9%	9%	13%	16%	14%
ヘルスケア事業								
売上高	10,304	11,726	10,894	11,423	44,348	10,924	11,748	22,672
増減率	-5%	14%	-7%	5%	7%	-4%	8%	na
売上総利益	7,813	8,203	8,103	8,390	32,508	8,106	8,573	16,679
対売上高比率	76%	70%	74%	73%	73%	74%	73%	74%
調整後EBITDA	1,642	1,609	1,732	1,584	6,568	2,033	2,379	4,412
対売上高比率	16%	14%	16%	14%	15%	19%	20%	19%
バイオ燃料事業								
売上高	118	188	306	322	934	253	205	458
増減率	-89%	59%	63%	5%	-67%	-21%	-19%	na
売上総利益	19	41	58	50	167	58	43	101
対売上高比率	16%	22%	19%	15%	18%	23%	21%	22%
調整後EBITDA	-124	-122	-89	-89	-425	-52	-59	-111
その他事業								
売上高	732	581	429	606	2,348	763	669	1,433
増減率	57%	-21%	-26%	41%	3%	26%	-12%	na
売上総利益	192	165	64	172	592	172	198	370
対売上高比率	26%	28%	15%	28%	25%	23%	30%	26%
調整後EBITDA	-65	-100	-166	-85	-415	-80	-86	-165
対売上高比率	-9%	-17%	-39%	-14%	-18%	-10%	-13%	-12%
全社								
売上高	0	-0	-5	-6	-11	-5	-4	-8
売上総利益	0	1	-1	-1	-0	-0	-1	-1
調整後EBITDA	-382	-337	-352	-327	-1,398	-356	-273	-628

ヘルスケア事業内訳								
(百万円)	2024/12期					2025/12期		
	'24Q1	'24Q2	'24Q3	'24Q4	合計	'25Q1	'25Q2	合計
ユーグレナ・ヘルスケア ^{*1}								
売上高	2,005	2,082	2,067	2,458	8,613	2,061	2,225	4,286
売上総利益	1,490	1,479	1,504	1,755	6,228	1,527	1,636	3,163
対売上高比率	74%	71%	73%	71%	72%	74%	74%	74%
調整後EBITDA	251	28	224	368	871	315	337	652
対売上高比率	13%	1%	11%	15%	10%	15%	15%	15%
エポラ								
売上高	869	847	881	943	3,540	831	794	1,625
売上総利益	673	670	676	712	2,732	631	620	1,252
対売上高比率	77%	79%	77%	75%	77%	76%	78%	77%
調整後EBITDA	36	42	75	110	262	91	25	116
対売上高比率	4%	5%	9%	12%	7%	11%	3%	7%
MEJ								
売上高	302	284	276	253	1,114	206	223	429
売上総利益	216	243	224	208	891	170	182	352
対売上高比率	72%	86%	81%	82%	80%	83%	81%	82%
調整後EBITDA	-7	14	72	50	129	36	32	67
対売上高比率	-2%	5%	26%	20%	12%	17%	14%	16%
キューサイ・グループ ^{*2}								
売上高	6,428	6,319	6,257	6,591	25,596	6,536	6,570	13,106
売上総利益	5,300	5,180	5,121	5,329	20,930	5,402	5,459	10,861
対売上高比率	82%	82%	82%	81%	82%	83%	83%	83%
調整後EBITDA	1,305	1,248	1,077	910	4,541	1,511	1,584	3,095
対売上高比率	20%	20%	17%	14%	18%	23%	24%	24%
サティス製薬・グループ ^{*3}								
売上高	13	1,659	1,567	1,310	4,548	1,437	2,102	3,539
調整後EBITDA	-5	222	305	149	672	91	404	495
対売上高比率	-39%	13%	19%	11%	15%	6%	19%	14%
事業内共通・相殺、はこ社 ^{*4}								
売上高	686	535	-153	-132	937	-147	-167	-314
調整後EBITDA	62	55	-20	-3	93	-11	-2	-12

*1: ユーグレナ社のヘルスケア事業及びグループ会社のLIGUNA（2024年3Q以降はユーグレナ社に吸収合併）、八重山殖産、上海ユーグレナ（2024年1Q清算）の合計
*2: Q-Partners、キューサイ、キューサイプロダクツ、キューサイファーム島根、CQベンチャーズ（2024年1月吸収合併により消滅）の合計。内部取引相殺を区分したため、前頁数値と相違あり
*3: サティス製薬、日本ビューテック、ナユタの3社。サティス製薬及び日本ビューテックは2024/3末をみなし取得日として連結化、ナユタは2024/2末をみなし取得日として連結化
*4: ヘルスケア事業全体の共通費、各ヘルスケア事業内グループ間の連結相殺、はこ社（2024/6末全株式譲渡）の合計

四半期業績推移 - 売上高/調整後EBITDA

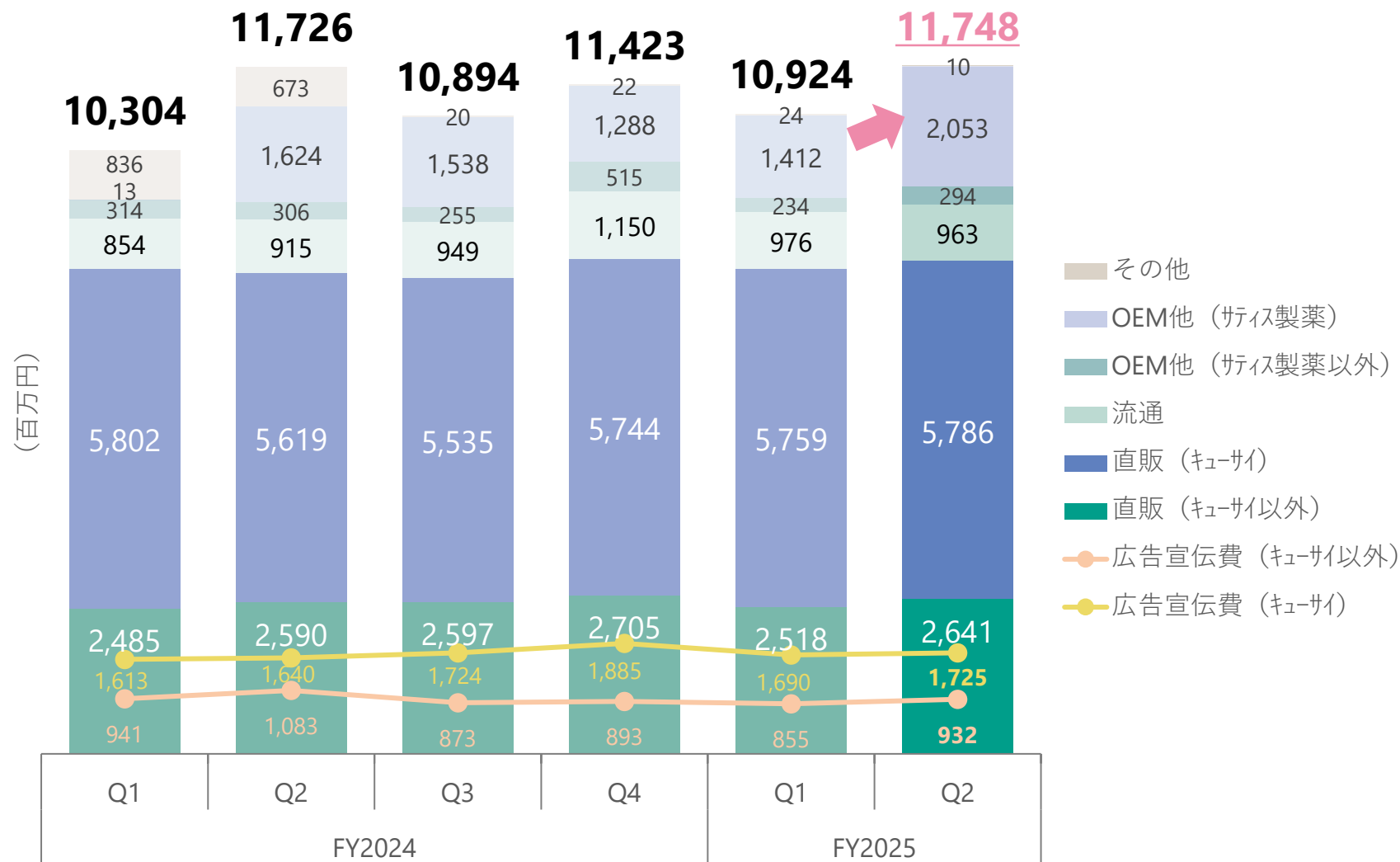
ヘルスケア各社の様々な収益構造改善策が寄与し、調整後EBITDAが大幅改善
サティス製薬の受注拡大等が寄与し売上もQoQで増加



四半期業績推移 - ヘルスケア売上高

直販はユーグレナの
CONCやキューサイの
コラリッチの顧客数拡大が
寄与しQoQ増加

OEMはサティス製薬が
大幅拡大しQoQ増加



連結貸借対照表

サティス製薬G
連結化*1

サティス製薬Gの
取得原価の配分完了

(百万円)	2023/12末	2024/3末*2	2024/6末*2	2024/9末	2024/12末	2025/3末	2025/6末
流動資産	24,431	29,438	29,196	29,408	30,865	30,094	29,398
現金及び預金	15,792	18,855	19,091	19,806	20,631	19,051	18,539
棚卸資産	3,685	4,360	4,364	4,033	3,661	4,150	4,301
その他	4,954	6,223	5,741	5,570	6,573	6,893	6,558
固定資産	35,188	44,279	43,494	42,180	42,391	41,467	39,692
有形固定資産	5,507	6,971	6,681	6,185	6,048	5,972	5,930
無形固定資産	27,764	35,879	35,085	34,243	33,565	32,911	32,258
（内 のれん）	11,639	12,963	12,719	12,475	12,231	11,988	11,754
（内 顧客関連資産）	14,796	21,237	20,816	20,396	19,976	19,555	19,136
投資その他の資産	1,917	1,429	1,729	1,752	2,778	2,585	1,505
総資産	59,619	73,717	72,690	71,588	73,256	71,561	69,090
負債	39,405	42,819	41,422	40,835	41,143	39,972	37,390
流動負債	12,271	13,038	12,278	12,152	12,812	11,940	11,970
（内 短期借入金）	3,294	4,558	4,403	4,360	4,145	3,874	3,695
固定負債	27,133	29,782	29,143	28,683	28,331	28,032	25,420
（内 長期借入金）	16,972	18,090	16,688	16,033	15,964	15,695	13,155
（内 繰延税金負債）	4,857	6,230	6,037	6,230	5,944	5,916	5,826
（内 社債）	4,800	4,800	5,800	5,800	5,800	5,800	5,800
純資産	20,215	30,898	31,269	30,753	32,113	31,589	31,700
株主資本	20,070	30,826	31,183	30,469	30,918	30,457	30,443
（内 資本金）	15,868	15,868	16,306	16,306	16,331	16,331	16,373
（内 資本剰余金）	15,199	16,419	16,857	16,857	16,882	16,882	16,925
（内 利益剰余金）	(10,962)	(1,426)	(1,945)	(2,659)	(2,261)	(2,722)	(2,820)
その他	144	72	86	284	1,195	1,132	1,257
負債・純資産合計	59,619	73,717	72,690	71,588	73,256	71,561	69,090

*1: サティス製薬、日本ビューテック、ナユタの3社。サティス製薬及び日本ビューテックは2024/3末をみなし取得日として連結化、ナユタは2024/2末をみなし取得日として連結化
2024/3末時点のBSでは、サティス製薬グループの連結に伴うのれん6,914百万円を暫定金額で計上。3Qに取得原価の配分が完了し、のれんの金額を1,899百万円に修正

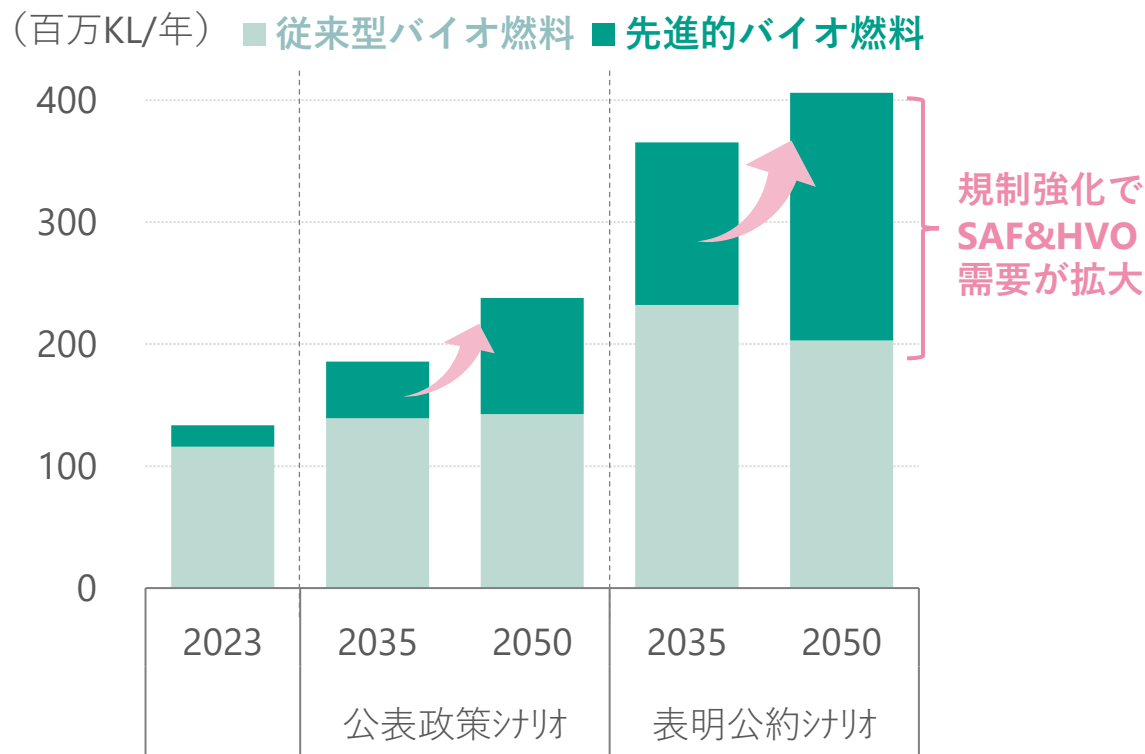
*2: サティス製薬及び日本ビューテック連結化に伴い計上したのれんの識別可能資産（顧客関連資産、受注残）への配分が2024/3Qに完了。2024/3末及び2024/6末は遡及修正後の数字

補足資料： バイオ燃料業界動向

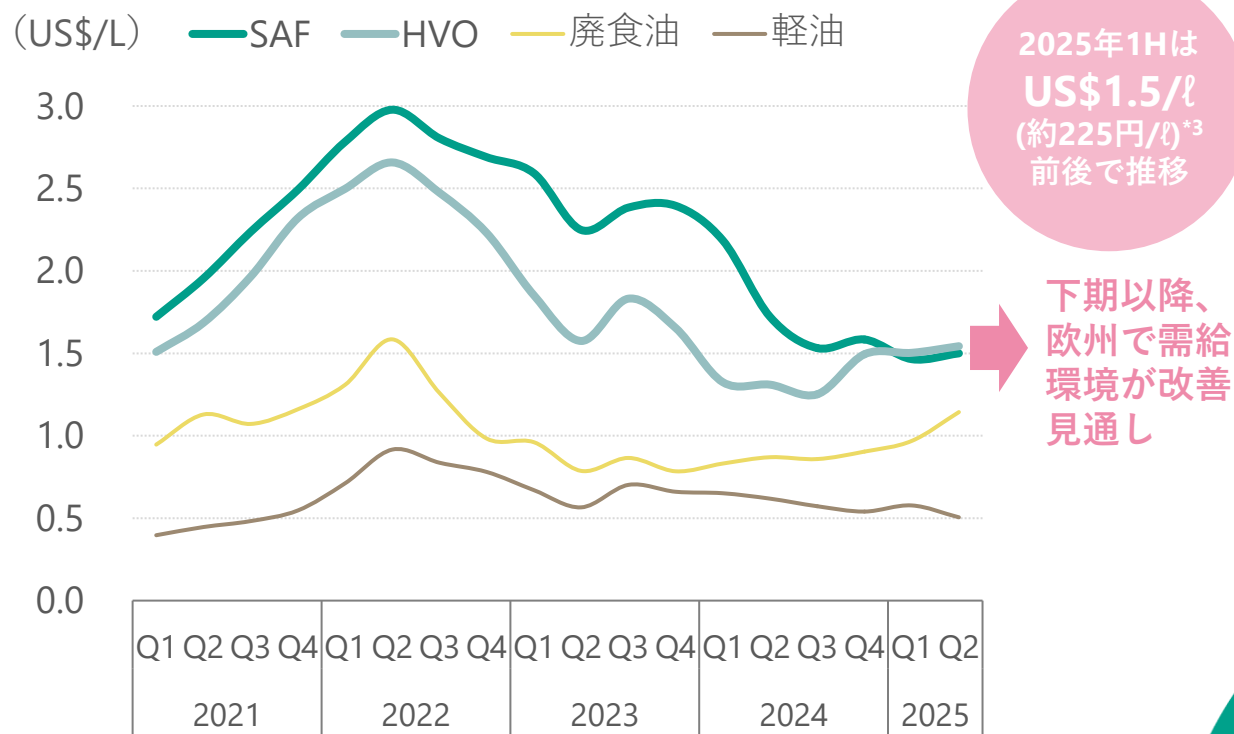
世界のバイオ燃料市場の動向

導入義務やインセンティブの強化により、バイオ燃料需要は飛躍的に拡大
供給過多や米国政策動向で短期的には軟調に推移するも、中期的には需給環境改善による反転を見込む

世界のバイオ燃料需要の見込み^{*1,2}



バイオ燃料価格（欧州）^{*3}



*1: IEA "World Energy Outlook 2024" (2024)データを基に当社で作成

*2: 「従来型」＝農作物由来の第一世代バイオ燃料、「先進的」＝廃棄物や非可食植物など食糧生産と競合しないサステナブルな原料で製造されたバイオ燃料

*3: Argus社データを基に当社で作成した参考値で、実際の価格は地域や取引条件によって異なる。比重は燃料0.8g/cm³・廃食油0.9g/cm³、\$1=150円で試算

世界のSAF導入方針と需要の見通し

EUと英国で2025年よりSAF 2%導入が義務化。CORSlA*¹や各国規制導入により、2030年に向けて国内外のSAF需要拡大が加速化する見通し

バイオ燃料導入に向けた各国方針

CORSlA

- 2019年比85%までCO₂排出量を削減
- 2024年から自主的運用（126か国が参加）、2027年から全ICAO（国際民間航空機関）加盟国に原則適用

欧州



- EU RED III
- ReFuel EU

アジア



- 日本
- ⇒10%@2030年～

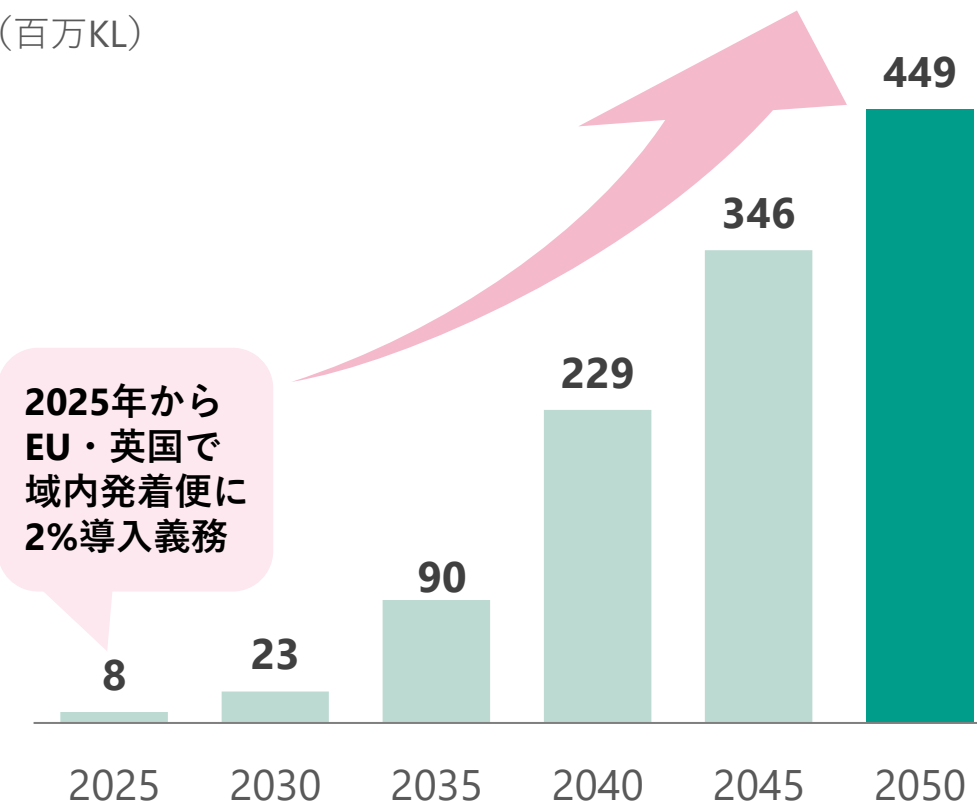
北米



- Grand Challenge
- RFS/LCFS等

世界のSAF需要の見通し*²

（百万KL）



20th

Anniversary
Euglena Co., Ltd.

ご案内①：ユーグレナ社20周年YEAR

20th
Anniversary
Euglena Co., Ltd.

あなたと、
人と地球を健康に。

2025年8月9日、ユーグレナ社は創業20周年を迎えることができました。

創業当時は、ミドリムシを大量に培養する技術も、
社会に価値を届ける手段もまだありませんでした。

しかし、みなさまからのご声援とご支援を力に、挑戦を重ね、失敗を乗り越え、
人々の健やかな暮らしを支える食品や化粧品、バングラデシュの子どもたちの栄養問題の解決
さらには地球環境を守るバイオ燃料や飼料・肥料などの社会実装へと
一歩ずつ、着実に歩んでまいりました。

ここまで来られたこと、そしてみなさまとの出会いとご縁に、心より感謝申し上げます。

わたしたちが目指すのは、バイオテクノロジーで、昨日の不可能を今日可能にし、
人と地球がともに健康であり続ける未来を実現することです。

20年という節目は、一つの通過点にすぎません。

これからもSustainability Firstを胸に、未来に向けて挑戦を続けていきます。

次の一歩も、みなさまと一緒に！



ページ内の
イラストにも
ふれてみてね



株式会社ユーグレナ
代表取締役社長
出雲 充

良縁感謝

20周年特集サイトの ご案内

ユーグレナ社は2025年8月9日に
20周年を迎えます。

スペシャルサイトを
8月8日夜に公開予定。
ぜひご訪問ください。

<https://euglena.jp/special/20th/>



ご案内②：IR関連情報

IRセミナーのご案内

● 個人投資家向けログミーIRセミナー

日時：2025年9月24日（水）19:00-20:00

形式：Zoomウェビナー

登壇者：取締役代表執行役員Co- CEO 兼 CFiO 若原 智広

参加方法：

Logmi IR Live（https://finance.logmi.jp/ir_live/816）のページより会員登録の上、「視聴予約する」を選択ください。
今回は初の**ゲスト登壇&対談形式**での開催です。



株式会社ユーグレナ
取締役代表執行役員 Co- CEO 兼 CFiO
若原 智広



元・ファンドマネージャー／
元・ディーラー
坂本慎太郎（Bコミ）様

● 今後のIRセミナーについて

下記HPにてお知らせ致します。是非ご確認ください。

<https://www.euglena.jp/ir/news/>

IR関連情報のご案内

● IRウェブサイト

<https://www.euglena.jp/ir/>

● IRメール配信サービス

<https://www.euglena.jp/ir/mail/>

● 株式・IRに関するお問い合わせ

<https://www.euglena.jp/contact/c03/>

● シェアードリサーチ社による当社レポート

（日）<https://sharedresearch.jp/ja/companies/2931>

（英）<https://sharedresearch.jp/en/companies/2931>

